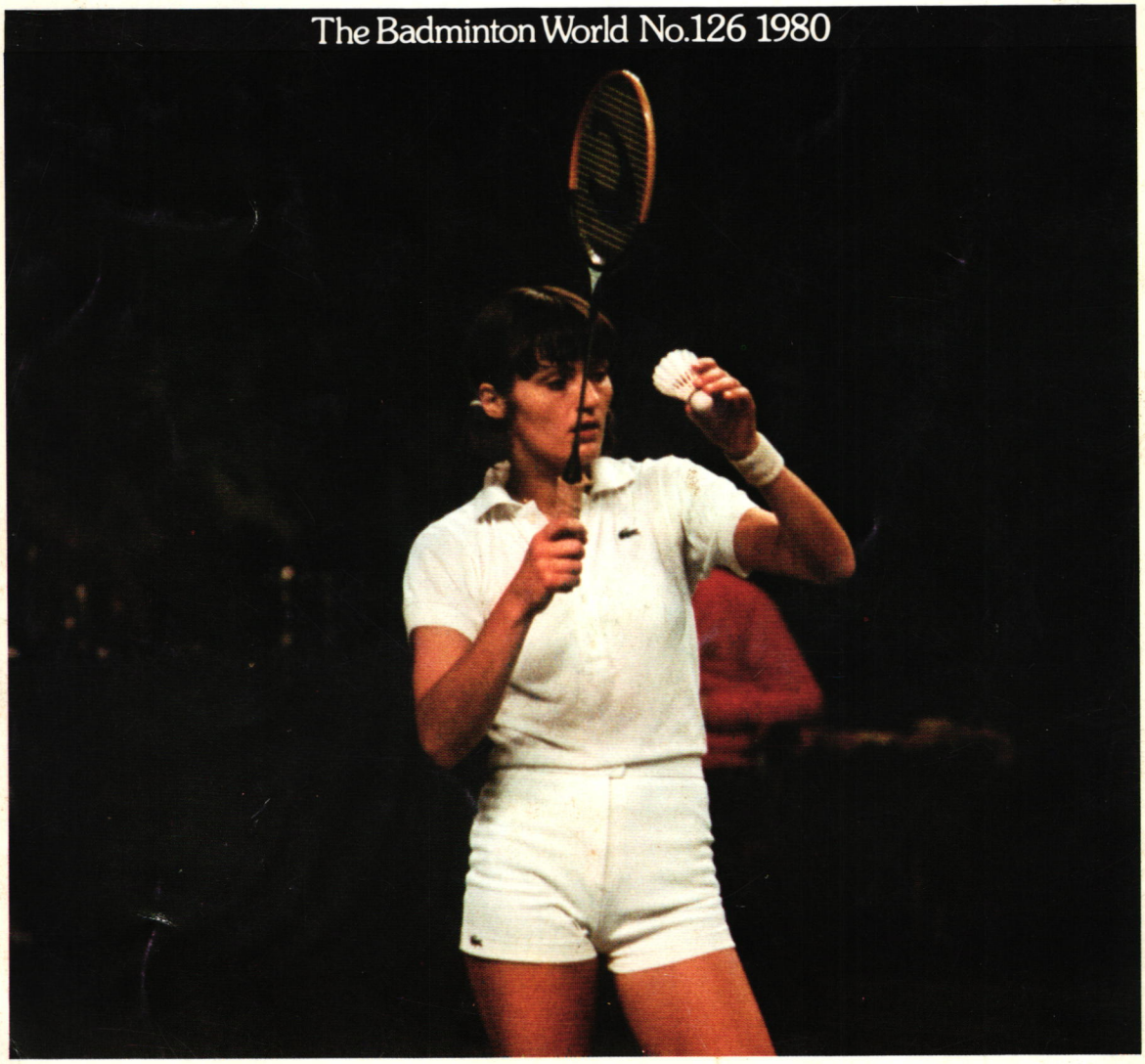
昭和55年4月15日発行（毎月1回15日発行 通巻126号）

バドミントン 4

The Badminton World No.126 1980





リム・スィー・キング

carlton
That's the name of the game

カールトン。確かな飛びを約束します

昭和54年度より，ナイロンシャトルは全国中学生バドミントン大会使用球になりました。

カールトンのシャトルは，ガチョ羽根の長所を完璧にとり入れました。——スカート（羽根）の特殊構造と回転機構を採用したヘッドは，ネットぎわのすばやいターンオーバーと正確なスマッシュ，スピードを生むよう設計されています。

PHOTO:左より……トーナメント・プラス，トーナメント，インターナショナル，クラブ。



●トーナメント・プラス
1ダース￥3,800
日本バドミントン協会審査合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球

●トーナメント
1ダース￥3,400
日本バドミントン協会審査合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球

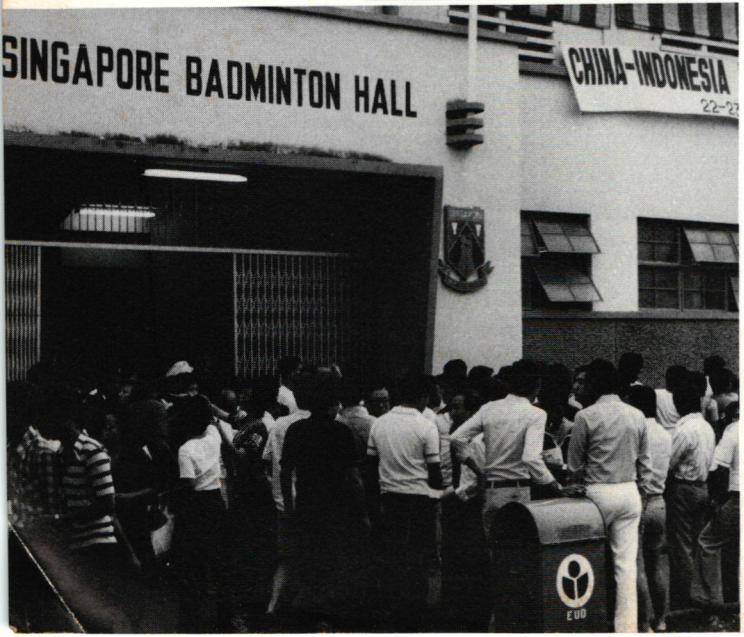
●インターナショナル
1ダース￥3,000
日本バドミントン協会審査合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球

●クラブ(練習球)
1ダース￥2,600

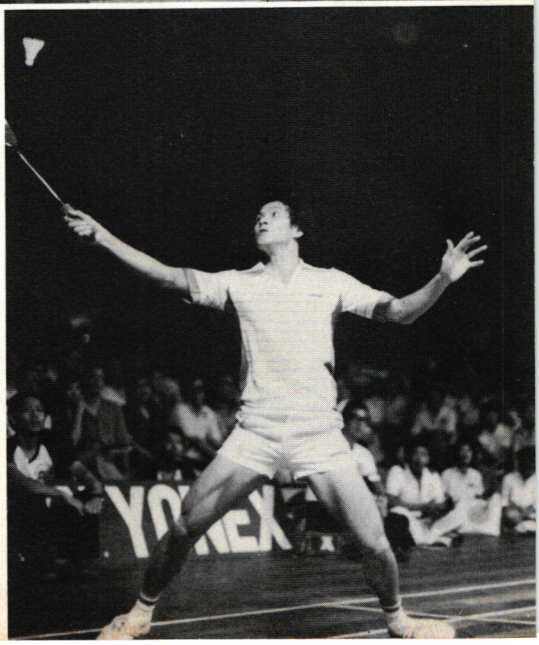
「中国VSインドネシア」史上空前の熱戦



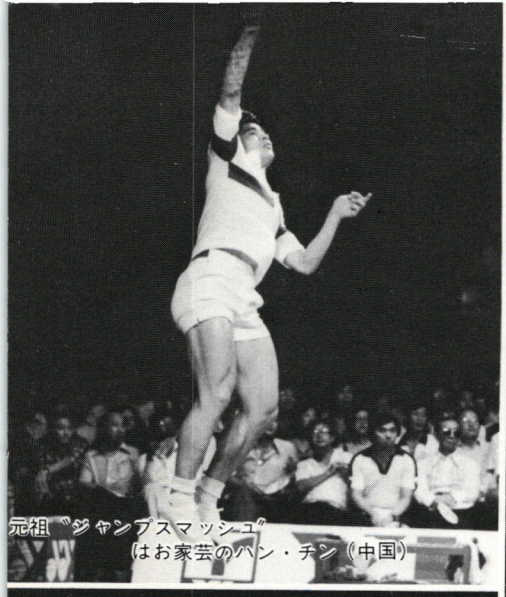
▶リム・スイ・キンを降し一躍脚光を浴びたハン・チン（中国）



◀超満員となったバドミントン・ホール



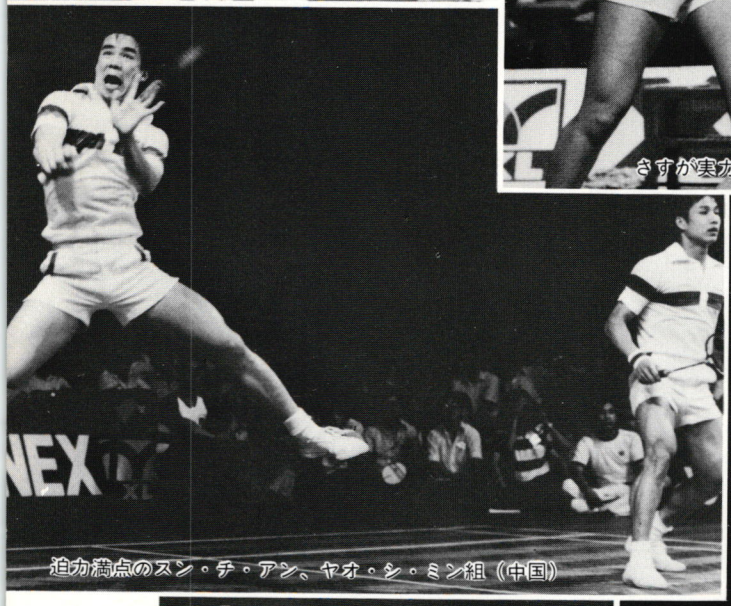
▶三年ぶりの敗戦を喫したリム・スイ・キン（インドネシア）



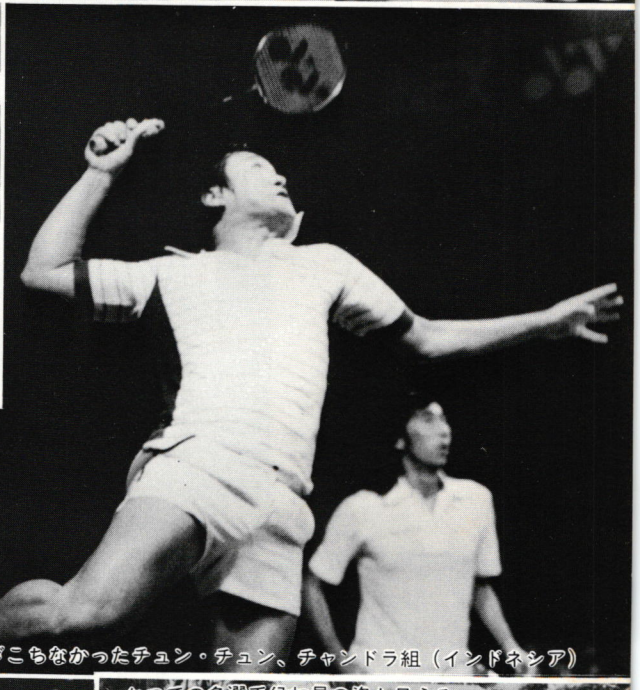
元祖〝ジャンプスマッシュ〟
はお家芸のハン・チン（中国）



さすが実力世界一、リュー・シャ、チャン・アイ・リン組（中国）

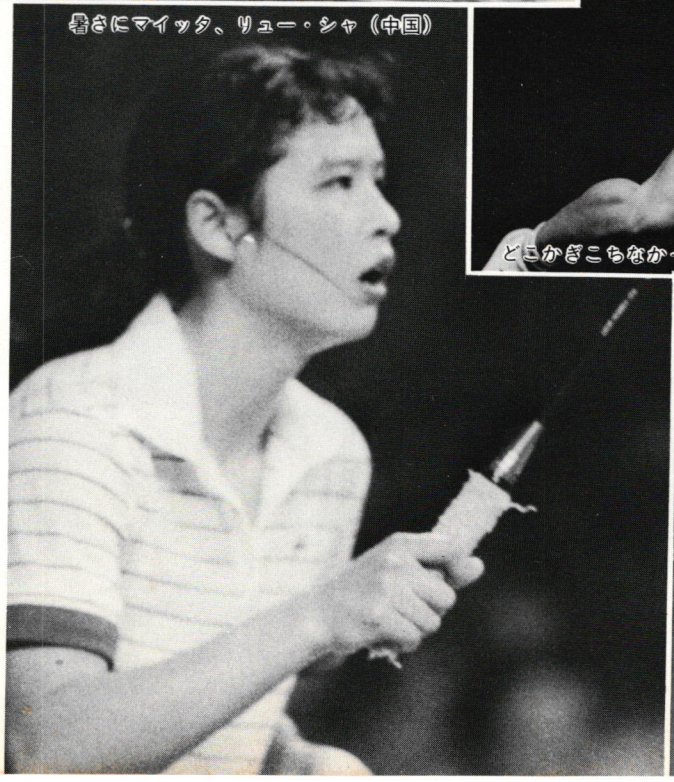


迫力満点のスン・チ・アン、ヤオ・シ・ミン組（中国）



どこかぎこちなかったチュン・チュン、チャンドラ組（インドネシア）

大波乱の連続



暑さにマイッタ、リュー・シャ（中国）

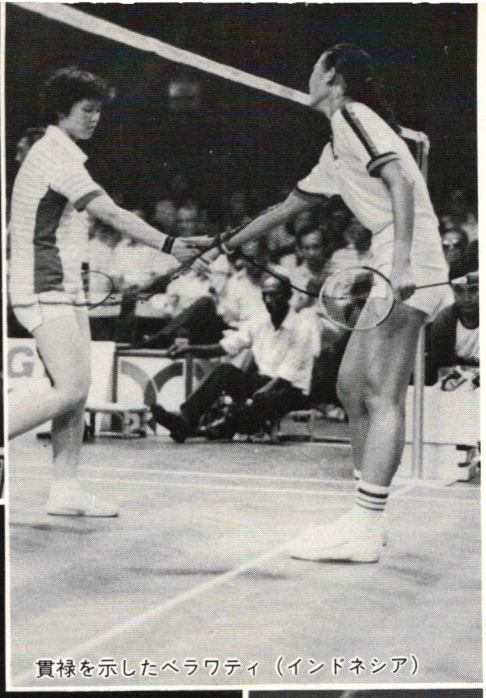


かつての名選手 徳加昌の姿も見える

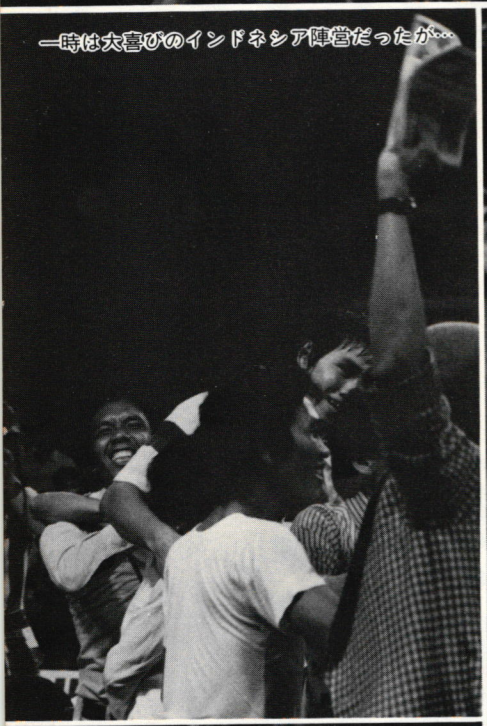
興奮のるつぼ



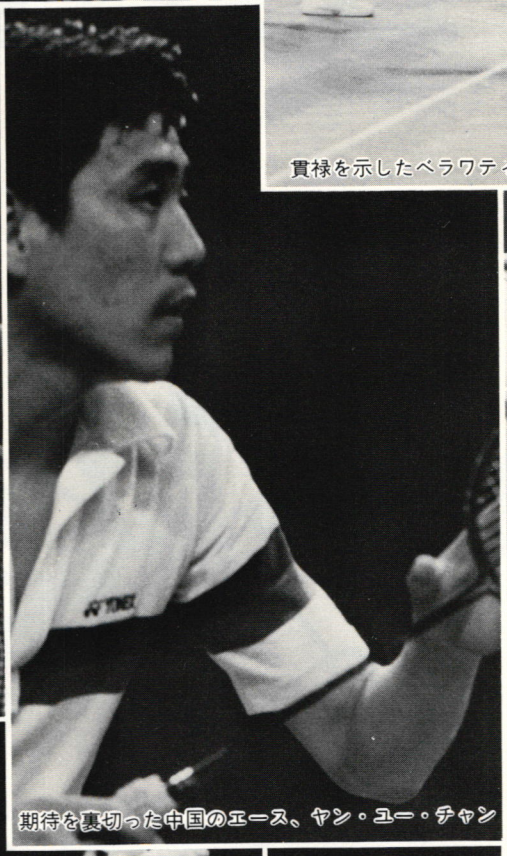
やっと面目を保ったクリスチャン、リム・スイ・キン組（インドネシア）



貫禄を示したペラワティ（インドネシア）



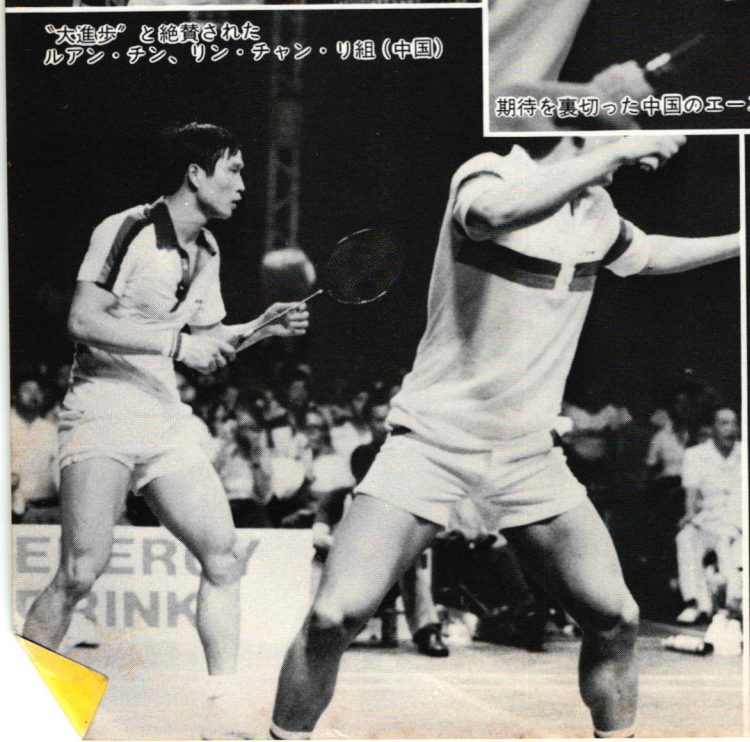
一時は大喜びのインドネシア陣営だったが…



期待を裏切った中国のエース、ヤン・ユー・チャン



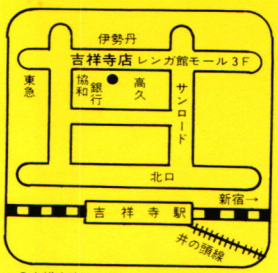
中国独特のバックハンド・サービス、スン・チ・アン（中国）



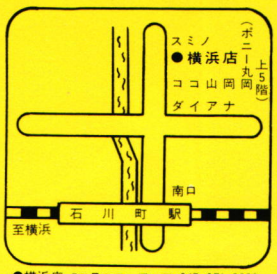
"大進歩"と絶賛されたルアン・チン、リン・チャン・リ組（中国）



大金星を挙げたイバナ・リー・インホー（インドネシア）



●吉祥寺店　バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



●横浜店 5F テニス・フロア 045-651-2020
☎ 045-662-9857
4F バドミントン・フロア
☎ 045-662-7133



●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215

ラケットショップ元町

はずめ'80 有頂天の彼方へ!!



バドミントン4

❶ グラフ 「中国・インドネシア」友好試合	㉖ グラフ 辻クン、ご結婚おめでとう
❻ 特報 激突〝中国ＶＳインドネシア〟	㉙ 連載①日本リーグ出場チーム紹介 「デンソー」チーム
❾ 特報 男子は中国、女子はインドネシア	㉞ 第70回全英選手権 リム・スイ・キン敗る
⓬ 全国高校センバツ――男子団体 今市、夏へ連覇の夢かけて	㊱ ナショナルチーム合宿
⓮ 全国高校センバツ――女子団体 熊本中央女、念願の全国制覇へ王手	㊳ 創立20周年おめでとう 八千代市バドミントン協会
⓰ 全国高校センバツ――男子個人 大島〝三冠王〟大器の片りん	㊷ 全国高校選抜合宿 競い合い、刺激し合う
⓲ 全国高校センバツ――女子個人 野上三冠を阻止、高峰組完全に独走	㊻ グラフ 若さの〝センバツ〟
⓴ 独立のごあいさつ	

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝第70回全英選手権女子シングルスを連覇したリーン・コーペン（デンマーク）選手　撮影＝赤星三樹

特報＝激突「中国VSインドネシア」

タイトルこそないが、これこそ全英にも優る名より実の事実上の〝王座決定戦〟!!

昨年末の開催に引き続いて、「中国・インドネシア」バドミントン友好試合が、2月22日、23日、シンガポールのバドミントン・ホールで行なわれました。

無冠の帝王といわれながらも中国は、WBFのチャンピオン国。片やインドネシアはトマスカップを保持するIBFのナンバーワン。

過去のいきさつはともかく、両協会の歩み寄りが叫ばれている今日、この「中国・インドネシア」友好試合は、世界の注目を浴びる中、両国の実力を計る上でも大変興味深い夜宴となりました。

両国とも、三十度に達する猛暑を反映するかのように、「実力世界一」の面目を賭けた熱戦を繰り広げましたが、意外にも男子はアジア大会の雪辱を果たして5対4で中国、女子も同様に3対1でインドネシアが勝利を握り、予想外の結果となりました。

事実上の〝王座決定戦〟ともいえるこの大会の模様を、平井克英特派員の報告でここにご紹介いたします。

◆第1日目

▽男子

中国 2―2 インドネシア

ヤン・ユー・チャン（閻玉江）
0（7―15 12―15）2
リム・スイ・キン

ハン・チン・（韓健）ルアン・チン（欒勁）
2（15―12 15―9）0
スミラット

リン・チュン・ヤン・リ（林江利）
2（15―6 15―10）0
チャンドラ

チュン・スン・チアン（孫志安）ヤオ・シミン（桃喜明）
1（15―9 7―15 15―13）2
リム・スイ・キン

クリスチャン（謝欒平）リュウ・シア（劉霞）
2（15―12 12―10）0
イバナ

▽女子

インドネシア 2―0 中国

イメルダ・ベラワテ
2（15―4 15―8）0
ハン・アイ・ピン

シェ・ルイ・ピン
2（12―15 12―9）0
イ・ヤン

まず大会前夜の地元の熱狂ぶりはすさまじいものだった。

地元紙は、練習風景の写真を全面に掲載する熱の入れよう。

専門筋の大会前の予想は――

オン・ポー・リム（シンガポールの50歳のベテランプレーヤー）氏は、「インドネシアはまったく無敵という訳じゃない。過去にも中国はインドネシアに勝ったことがあるし、この大会は中国が暑さと湿気にどれだけ打ち勝つかにかかっていると思う。中国がシングルスに3つ、ダブルスに2つ勝ち、5対4で中国の勝ちと予想します。」

アイリン・リー（前シンガポール・シングルスチャンピオン）氏は、「より多くの経験を積んでいるインドネシアの勝ちでしょう。すべての点でインドネシアが優っていると思う。もし中国に勝つチャンスがあるとするなら、それはシングルスであって、ダブルスでは分が悪いと思う」。

イスマイル（前マレーシア・ダブルスチャンピオン）氏は、「インドネシアは、少なくともリム・スイ・キンのふたつのシングルスと、ダブルスすべてに勝つことができるだろう」。

ウォン・スン（78年シンガポールチャンピオン）氏は「大接戦になると思う。勝つチャンスはどちらにもある。リム・スイ・キンが単複に出場しそうだから、集中攻撃を受けるかも知れない。チャンドラのスピードが遅くなっているので、つまずくことになるかも知れない」。

とインドネシア有利の予想が支配的であった。

両国の発表によると、北京のリーダー的プレーヤー、チェン・チャン・ロンは、最悪のコンディションのため出場を中止、またインドネシアのヨハン・ワジュディはジャカルタでの練習中に痛めた足の故障によりこれまた欠場。

このため、クリスチャンのパートナーにリム・スイ・キン、チュン・チュンのパートナーにはチャンドラという発表、チュンチュン、チャンドラ組は4年前のインドのハイデラバッドで組んで以来のコンビで、少し不安定な感を抱かせるものだった。

両国の記者発表は「一日にふたつの試合の消化は、リム・スイ・キンにとって確かにハードなものであるが、しかし彼には強靱なスタミナとバネがある。トマス杯の厳しい規定で、6選手しか出せない現状ではこれも仕方ない。リム・スイ・キン自身も、チームのナンバー1プレーヤーであることを自覚しているし、自信も持っている。彼が9ポイントのうち4ポイントを取ってくることは明らかだ」とインドネシア・オフィシャルが談話すれば、中国のオフィシャルも「チャンピオンのヤン・ユー・チャンの強さは自他ともに認めるところ。彼のシングルスには全幅の信頼を置いている」と語り、早くも試合前から激しい火花が散って、いやが上にも両国の対決ムードが高まっていった。

◎　◎　◎

第1日目のハイライトは、注目を集めた男子にあらず、女子のシングルスで起った。


星洲日報　1980年2月22日　星期五

中印羽球赛

决战前夕

熱狂ぶりを伝える前日の新聞

リャン・チュー・シャの後継者として、アジア大会を制し名実ともに〝実力世界一〟と疑問さえ抱かれなかったリュー・シャが、インドネシアの若手イバナ・リー・インホーに敗れる大破乱が起ったのだ。

すべての点で優るリュー・シャの、予期せぬ最大の敵は、それは〝暑さ〟だった。

第1ゲームを失ったリュー・シャは、第2ゲームでは6―0とセーフティリードを奪い、誰もが逆転勝ちを信じたが、イバナの執拗な食い下がりに疲労困ぱいの表情。あっという間に6オールと追いつかれ、10オールまで一進一退が続いたが、リュー・シャには逆転できるだけの余力が残っていなかった。

リュー・シャ、そして中国には考えられない敗戦。

イバナはただがむしゃらな粘りで勝利を収めたが、インドネシアの女子にとって新しいスターの誕生といえる。

イバナの勝利を目前にして、インドネシア応援団は「バグース、バグース（素晴らしい）」の大合唱。

試合後、リュー・シャは顔面蒼白、中国の王文教氏は「リュー・シャの敗北は、ただ暑さのみ」と語ったように、コンディションの調整に失敗したことは明らかだった。

注目のリム・スイ・キンは、中国ナンバー1のヤン・ユー・チャンを33分で降したが、第2ゲーム、ヤンは0―6の劣勢からジリジリと挽回、6オールとし、12―13の勝負どころで中国独特のバックハンドサービスを試みたが、これが不運にもアウトとなって、ファイナルゲームに持ちこむことができなかった。

ここで得点しておけば、セッティングであり、勝利の女神はどちらに微笑んだか分らない。

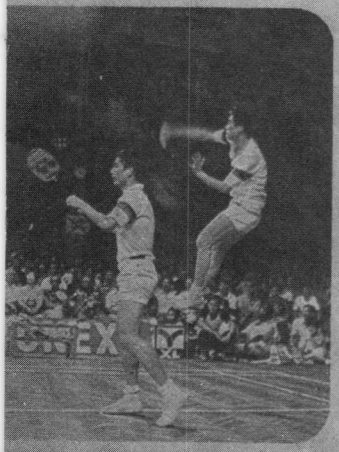
ヤン・ユー・チャンにとっては悔恨のサービスミスといえる。

中印羽球賽

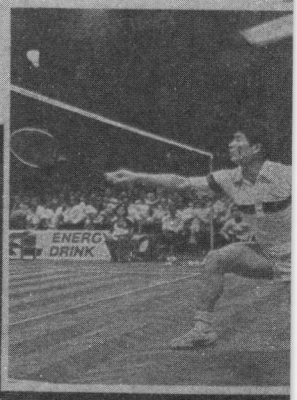
演出優異 技術精湛 高潮疊起



▲ 新加坡奧理會會長巴克，在中、印羽毛球賽期間，當衆介紹過去一些羽毛球名將，諸如黃秉璇、王保林和宋尼威。



◀ 孫志安躍殺，姚喜明防備，他倆擊敗梁春生和雷鑫源。

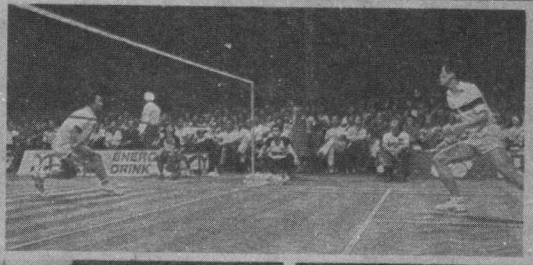


▶ 韓健擊敗兩屆全英冠軍林水鏡後，被觀衆抬起來祝賀。



樂勁聲慢偉鏡之發所施展的網前球打法。

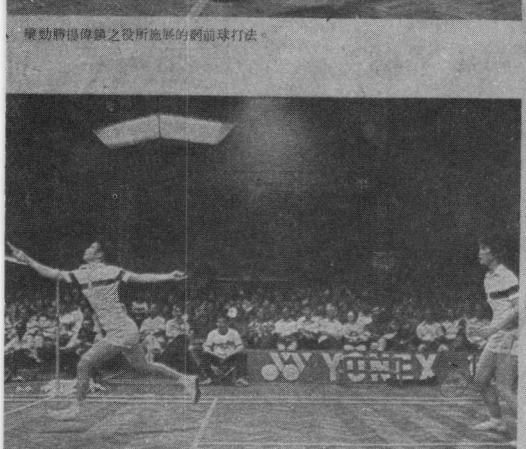
圖：陳松亭
文：曾國柱



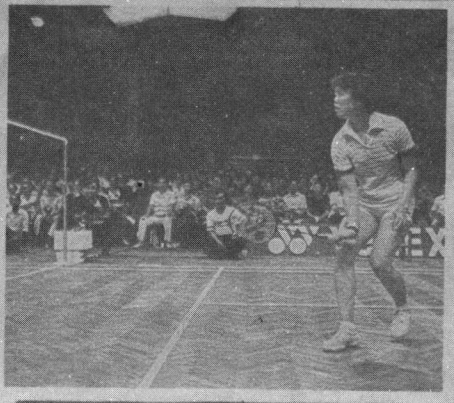
◀ 中國閻玉江（右）和印尼蘇米拉（左）

張愛玲對維拉華蒂之殺的反手擊球。

▼ 林水鏡輸姑姆健網前球打法。

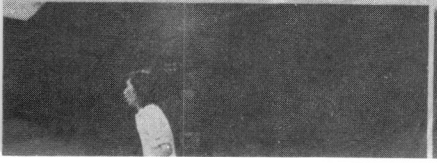


▲ 中國女選手劉霞一個網前撲殺，張愛玲在後防備，他倆擊敗印尼的李英華和曾素環。

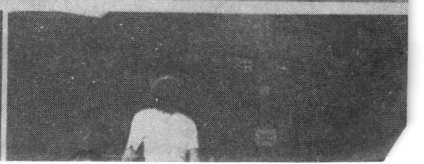




▼ 印尼的雙打選手張鑫源滑倒場上，猶能回擊來球，他的搭檔是梁春生，這是一組遭擒鏡頭。







予想外!!男子は5対4で中国が、女子は3対1でインドネシア。リム・スイ・キンは韓健に不覚をとる大波乱

◆第2日目

▽男子

中国 5（単3—2 複2—2）4 インドネシア

ヤン・ユー・チャン（闇王江） 0（7—15 7—15）2 スミラット

ルアン・チン（欒勁） 2（15—13 15—12）0 ダニー

ハン・チン（韓健） 2（18—17 4—15 15—11）1 リム・スイ・キン

スン・チ・アン（孫志安） ヤオ・シ・ミン（桃喜明） 2（15—12 15—13 16—17）1 チュン・チュン・チャンドラ

ルアン・チン（欒勁） リン・チャン・ソー・ガン（劉霞） 0（8—15 15—11 5—15）2 クリスチャン・イバナ チャン・リュウ・シャ

ハン・スン（林江利） イ・キン（張愛玲） 1（11—8 12—9）0 ベラワティ・アイリン

▽女子

インドネシア 3（単2—0 複1—1）1 中国

試合前の予想とはまったく違った、男子は中国、女子はインドネシアの勝利となった。

その第一の原因は、リム・スイ・キンの敗戦によるところが大きいが、第2日目はそればかりではなく、波乱の連続であった。

まず、リュー・シャ、チャン・アイ・リン組がイバナ、チャン・ソー・ガン組に順当勝ちしてこの日の幕が切って落とされたが、次に登場したヤン・ユー・チャンがまったく前日とはって変った元気のなさで〝中国に強い〟スミラットに名を成さしめたのだった。

スミラットは、例によって跳び上がって体中で喜びを表現、「バグース、バグース、インドネシア」は最高潮に達した。

しかし、インドネシアの喜びは束の間だった。

第3同士の対戦で、ダニーがルアン・チンに敗れ去ったのだ。

65分間もかかる長い試合だったが、ダニーは第1ゲーム、12オールから凡ミスを3本続けて失い、第2ゲーム、ルアン・チ

「チャイナ・チャイナ・ナンバー1」「バグース・インドネシア」の大合唱!!

ンが疲れ切った表情をしているのに11—12のとき、ソックスを取り替えるなど、疲労回復の余計な時間を相手に与えて、理解に苦しむゲーム運び。

地の利を生かすのに絶好の場面、何とも不可解な印象を受けたダニーだった。

さて、問題の一戦となるリム・スイ・キン対ハン・チンが始まる。

ハン・チンは、中国のランクは2位に甘んじているが、アジア大会でも決勝へ進出した実力者、二十二歳とまだ若くこれからの中国を背負って立つ期待のプレーヤー。

リム・スイ・キンは第1ゲーム0—4、2—6と苦しい立ち上がりだったたが除々に盛り返して9オールとし、10オール、11オールまで追いすがったが、キムらしくない凡ミスを出して第1ゲームを失った。

第2ゲームに入ると、今度はハンの凡ミスが目立ち、一方的な試合内容でキムが奪い返し、いよいよファイナルゲームへ。

疲労度から予想すると、はるかにリム・スイ・キン有利と思われたが、5分間の休憩でハンは見違えるほど元気を取り戻した。

まさにし烈、ファイルはスマッシュの応戦となった。

サービスが来ればスマッシュ、上がればスマッシュ、体勢が崩れてもスマッシュ、13オールまで一進一退の攻防が続き、観衆も、「チャイナ、チャイナ、ナンバー1」「バグース、インドネシア」の大声援、興奮のるつぼとはこのことであろう。

13オールのセッティングからリム・スイ・キンは、4—2とマッチポイントを手にし、勝負あったかと思わせた。

そしてその通り、ハンのリターンがふわふわっとキムのコートに上がり、熱戦の幕が降りたと、誰もがそう思った瞬間、鈍い音がしてキムのスマッシュはネットへ。

何とリム・スイ・キンが、絶好球をフレームショットしたのだ。

ラケットを叩きつけて悔しがるキム。

この姿を、誰が予想し得るであろうか。

あの柔和で、コートマナーの良いリム・スイ・キンが——。

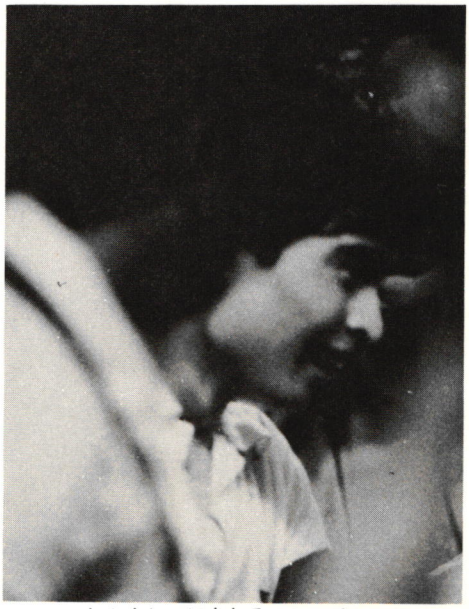
絶好球をミスし、怒りにも似た悔しさを表現したリム・スイ・キン、あれもこれも、この試合に勝つことがどれだけ難かしかったか、どれだけ勝ちたかったかの証明でしかない。

兎に角、リム・スイ・キンは敗れた。

「攻守ともに、技術はリム・スイ・キン」が上と万人が認めても、不覚ではあっても、リム・スイ・キンは敗れた。

これから脂の乗る年齢にさしかかってのこの敗戦は大きい。

全英チャンピオンとしての、王国インドネシアのエースとしてのプライドが、元来ハルトノと比較される精神的な弱さが、これからどうキムを支配していくのであろうか。



もみくちゃにされるハン・チン

たたちまちにして英雄に祭り上げられたハン・チンとの明暗は、あまりにも厳しい勝負の世界を目のあたりに見るような思いだった。

このキムの敗戦が、結局1ポイント差で敗れたインドネシアの最大の誤算だった。

チュン・チュン、チャンドラ組は、どちらも後衛を得意とす



天に見はなされたリム・スイ・キン

るプレーヤーだけに、ぎこちなさが出てくるのは仕方のないところか。

それよりも中国若手ダブルスの驚異的な成長に目を見張るべきだろう。

試合後の、両国の談話にも興味深い――。

ミナルニ（インドネシア・女子コーチ・元全英ダブルスチャンピオン）氏は「選手はよくやった。私達のプレーは進歩している」。

陳玉娘（元チャンピオン）氏は「私達（女子）の敗因は暑さであった。5日前に現地に到着したが順応できなかった。打つ球は遅く、コントロールも甘かった。現在の中国選手は、国際経験とバドミントンのキャリヤが浅い」。

ソネビル（元IBF理事、元インドネシア・チャンピオン）氏は「中国、インドネシアとも進歩している。特にインドネシアの女子は目ざましい」。

侯加昌（元中国チャンピオン）氏は「接戦で負けたが、中国のダブルスは攻撃面で進歩している」。

アテ（インドネシアコーチ）氏は「リム・スイ・キンは全力を尽したが、ハン・チンを打ち破ることができなかった。中国は本当に偉大だ。ルアン・チン組は2ヵ月前より格段の進歩が見られる。われわれは、明らかにショックを受けたことを認めざるを得ないだろう」。

地元の新聞も「インドネシア（男子）にとって、敗れるというのは稲妻のような衝撃。彼らは呆然となった」と結果の意外さを伝えた。

これらの談話にわれわれが一番驚くことは、すべてが〝国のバドミントン〟を指していることである。

各国が遊び半分でやっているうちはまだいい、IBFとWBAがいがみ合っているうちはいい。しかし、各国が目の色を変え、IBFとWBAが手を結んだ暁には――。背筋がゾッとするのは果たして錯覚であろうか。

この世界最高峰の大会に、日本からもコーチ、指導者の派遣があっても、お可笑しくはなかったのではないか。

幸い、四月下旬に中国の来日が決定している。

このチャンスを見逃がすことなく、日本関係者にジックリと見ていただきたいものだ。

（特派員・平井克英）

キャリングに!!

ラケットケースに!!

キラリと光る

The
Badminton
World
ステッカー

BADMINTON WORLD

"BADMINTON WORLD" ステッカーは、銀バクにグリーンと白で印刷したしゃれたデザインです。もうすでに4年目を迎え、多くの人々のラケットケース、キャリングバッグに"光って"います。

1枚100円ですが、5枚まとまれば300円になります。（送料50円均一）ので、ぜひクラブかチームでまとめてください。

お申込みは、本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からどうぞ。バドミントン界編集部

覇の夢かけて

第8回全国高等学校選抜バドミントン競技会が、3月24、25の両日、今年の国体の会場である栃木県真岡市総合体育館で行なわれました。

今年から、混成チームだった団体戦が学校単位に変更され、より〝夏のインターハイ〟に直結することになりました。

男子団体は、地元今市高が昨年夏の余勢をかって初優勝、女子団体は常勝四条畷が敗れる大波乱が起き、若いチーム作りを目指す熊本中央女がこれも初優勝に輝きました。

男子個人は、大島（今市）がシングルスに、ダブルスも大堀と組んで優勝、三冠王の座につきました。

女子個人は、野上（新潟青陵）が熊本中央女の三冠を阻んでシングルスを制し、ダブルスは高峯・井村組（熊本中央女）が安定した力を発揮、他を圧倒する強さを見せつけ制覇しました。

◇男子団体

▼1回戦

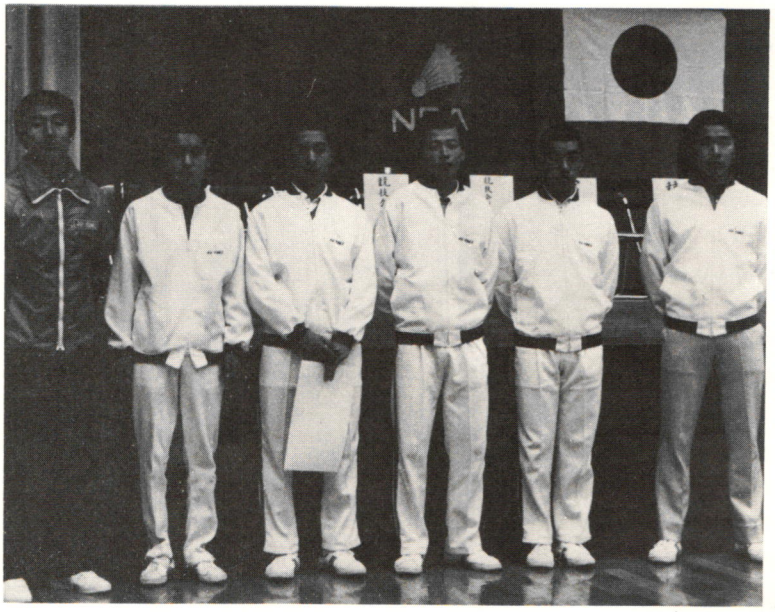
今市（栃木）	3	15—2	15—5	伊勢工業（三重）
大堀	2			納所
鈴木	2			荻口
0				0

▼2回戦

今市	2	15—7	15—10	大島
石下	0	0—15	0—15	谷野
比叡山（滋賀）	1	15—5	15—8	伴野
山本	2	15—8	18—17	伊藤
馬杉	0	15—5	15—7	高橋
竹端	1	15—10	9—15	15—5	大堀
西山	2				鈴木
高岡第一（富山）	2	15—5	15—2	前多	堺
1				0	2
西本	2	13—18	12—15	本石	東
上田	0	18—14	16—16	15—10	伊藤
杉本	1				福田
中島	2				

▼準決勝

今市	2	15—8	15—9	九州学院
大堀	0			本石
鈴木	2			堺
0				0
吉氷	2	15—8	15—6	西崎
鰐川	0			北村
三田美	2	15—3	15—0	徳田
0				0
本田	2	15—1	15—10	阪本
鈴木	2			宇野
高知商業（高知）	2	4—15	5—15	小笠原
森本	0			寺島
矢野	2	15—2	15—3	山田
山口	0			川幡
竹崎	2	15—11	15—10	駒込
横浜立野	3	15—2	15—5	大島
0				2
石下	2	15—9	15—7	中西
谷野	0			酒徳
横浜立野（神奈川）	3	15—5	15—8	中村
0				0
本田	2	15—8	18—17	伊藤
鈴木	2			斉藤
三田美	2	15—5	15—7	高橋
0				0
吉氷	2	15—5	15—8	中村
鰐川	0			伴野
大島	2	15—6	15—9	梅津
0				0
帯広柏葉（北海道）	2	15—7	15—5	小森
小笠原	1			寺島
倉敷天城（岡山）	0	15—11	15—10	駒込
横浜立野	3	15—2	15—5	大島
0				2



地元の声援に応えた今市高

●男子団体

今市、夏へ連

大　島 2 (15—5 15—0) 0 東
横浜立野 2—0 高知商業
本　田 2 (15—2 15—11) 0 小笠原
鈴　木 2 (15—8 15—1) 0 森　本
三田美 2 (15—8 15—1) 0 矢　野

▼3位決定戦

九州学院 2—0 高知商業
伊　藤 2 (15—0 15—1) 0 山　口
福　田 2 (15—1 15—8) 0 竹　崎
堺 2 (15—1 15—8) 0 矢　野

▼決勝

今　市 2—0 横浜立野
大　堀 2 (15—7 15—3) 0 吉　氷
鈴　木 2 (15—8 15—4) 0 鰐　川
大　島 2 (15—8 15—4) 0 三田美

（今市高は初優勝）

昨年初の全国制覇の自信、そして最近著しいレベルアップを見せる中学生の台頭を基盤に、今年の〝栃の葉国体〟の開催地・地元今市高が、予想を大きく上回る快進撃を見せ、見事に大激戦区から決勝へ勝ち上がった。

今市は、大島、大堀の全国中学準優勝の経験者を得点源にして、大島でシングルスを確実に取り、大堀・鈴木組を相手校によって臨機応変に、第1と第2ダブルスに登場させる作戦がズバリ的中。

ことに「練習試合では苦敗を喫した」（今市高・別井監督）対比叡山戦では、第1ダブルスを完敗したものの、大島が尻上がりに調子を出して逆転勝ち。大堀・鈴木組も第1ゲームを失ったが、冷静さを取戻してこれも逆転勝ち。実力的には事実上の決勝戦ともいえる最大のヤマ場を切り抜けた。

比叡山の山本・馬杉が絶好調のプレーをしていただけに、あるいは、ダブルスの当たり方次第では、案外逆の結果となっていた可能性も強かった。

文字通り〝紙一重〟の実力を持つ両校、春の成績が〝夏〟に直結するとは限らない。今後の成長度、そして運。

〝灼熱のインターハイ〟までと四ヵ月、この今市、比叡山を中心に、まだまだ予断を許さないし烈な争いが続きそうである。

〝九州の雄〟九州学院は、昨年、一昨年と比べひと回りもふた回りもスケールが小さくなった感じ、パワー不足をどこまで解消できるか、夏の暑さにはめっぽう強い熊本のこと、簡単に見捨てるわけにはいかない。

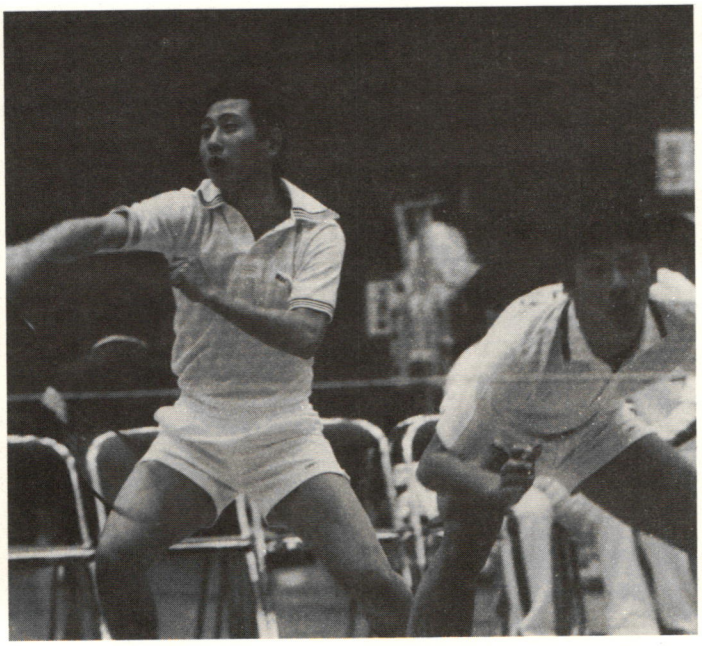
一方のブロックから決勝進出を果たしたのは横浜立野。

本田・鈴木の攻撃型コンビと、しぶとい三田美のシングルスでポイントを挙げ、野性味には欠けるが、チームワークであれよあれよという間に勝ち上がった。

幸い立野のブロックは強敵が少ないことにも助けられたが、何が飛躍台になるか分らない高校生のこと、自信さえつければ頂点との差も一気に縮まるはずである。

北陸からの代表高岡第一も、ダブルスに底力を見せ、決して侮れない存在であることを示したし、全国には予選で惜しくも敗れたチームが、虎視眈々と爪を研いでいる。

実力の双壁と見なされる今市、比叡山も、実はこれからの〝四ヵ月〟が正念場である。



本田・鈴木組（横浜立野）も大健闘

の全国制覇へ王手

◇女子団体

▼1回戦

小山城南（栃木） 3－0 砂川南（北海道）

高橋 2（15－1 15－7）0 酒井 瀬川 湯沢

荒川 2（15－6 15－11）0 舛田 神山 稲川

平間 2（11－0 11－1）0 伊藤 稲川

熊野 0（12－15 12－15 15）2 折田 三枝 中条

山内 2（11－9 12－11）0 丸山 佃

真鍋 2（18－15 15－7）0 小松 大竹

高松中央 2－1 横浜立野（神奈川）

▼2回戦

熊本中央女子（熊本） 2－1 小山城南（栃木）

高峯 井村 2（15－8 15－6）0 高橋 湯沢

陣内 2（11－0 11－2）0 稲川 荒川

畑野 村田 0（0－15 3－15）2 平間 荒川

新潟青陵（新潟） 3－0 愛知淑徳（愛知）

山田 山内 2（11－5 15－2）0 奥村 光崎

野上 2（11－1 11－0）0 奥田 小池

石崎 松井 2（15－3 15－0）0 近藤 成瀬

千葉学園 2－1 四条畷学園（青森）（大阪）

佐藤 藤永 2（15－7 15－6）0 松田 新木

小池 1（9－11 12－9 6－11）2 尾崎 若林

西岡 橋本 2（15－4 15－6）0 久世 若林

高松中央 2－1 山陽女子（香川）（岡山）

熊野 中条 0（6－15 7－15）2 原田 竹原 山崎

山内 2（11－2 11－1）0 山崎 天野

佃 真鍋 2（15－3 15－3）0 森 天野

▼準決勝

高峯 井村 2（15－1 15－3）0 山田 山内 新潟青陵

陣内 2（11－3 11－9 2－11）1 野上 千葉学園

佃 真鍋 2（18－15 15－5）0 西岡 橋本 千葉学園

山内 2（11－5 11－0 10－12）1 小池 西岡

▼3位決定戦



充実したメンバーが揃った熊本中央女

●女子団体

熊本中央女、念願

新潟青陵　2―0　千葉学園

山田
　　2　17―16
山内　15―8　0　佐藤
　　11―8
野上
　　2　6―11　1　西岡
　　11―2

▼決勝

熊本中央女子2―0高松中央

高峯
　　2　15―2
井村　15―4　0　佃
　　11―7
陣内
　　2　11―6　0　真鍋
山内

（熊本中央女は初優勝）

夏のインターハイに5連勝、春のこの大会でも大阪チームとして5連勝をばく進中の〝無敵〟四条畷が、佐藤正明監督率いる青森・千葉学園に敗れる大波乱が起き、一日にして勢力分布図が大きく塗り替えられた。

波乱の立役者となった千葉学園は、メンバー全員がそれ相当の力を持った好チーム、ダブルスふたつに圧勝して、一躍注目を集めることになった。

それでも「故障者が多く万全ではなかった」（佐藤監督）のだから、推してその実力を知るべし、四条畷戦の無理がたたったのか、次の準決勝・高松中央戦では集中力を欠いて苦敗、まさに四条畷戦に精も根も使い果たした格好になった。

千葉学園を降した高松中央、そしてこれを撃破した熊本中央女と、今年はキラ星のごとく実力伯仲の強豪チームがひしめき合っているのが最大の特徴。

まだまだそれだけではない。地元栃木の小山城南もよく走り、よく拾って、栃木復興ののろしを上げたし、横浜立野も粒揃いのまとまりを見せ、高松中央を相手に大健闘を繰り広げたし、新潟青陵は今年も優勝を狙う絶好の位置にいる。

敗れたとはいえ、四条畷もこのまま簡単に引き下がるわけはなく、独特の猛練習で鍛え上げて必ずや捲土重来を期してくるに違いない。

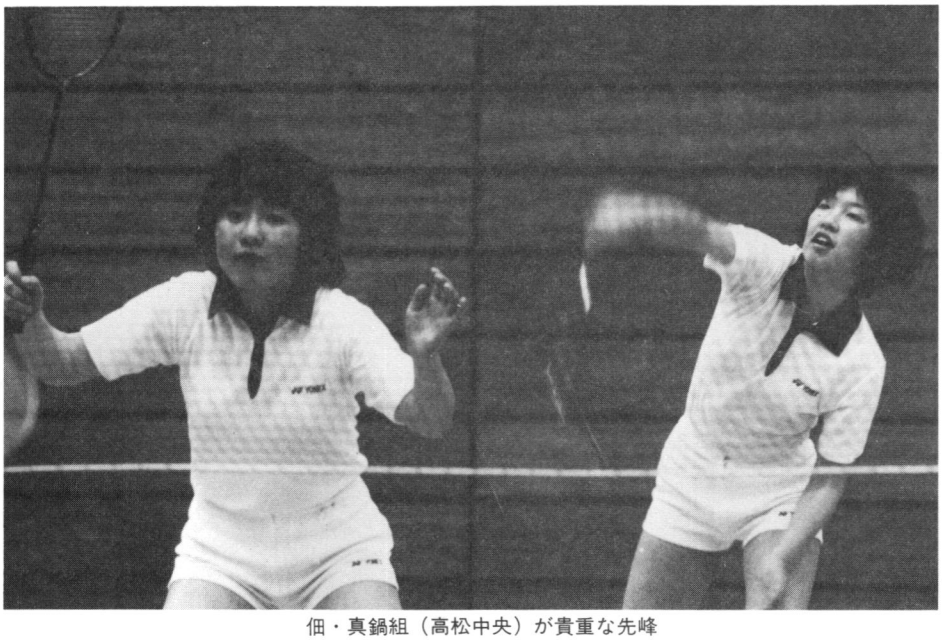
だが、優勝した熊本中央女が何といってもインハイ優勝戦線のトップを突っ走っていることは衆目の一致するところ。

高峯が、昨年までとはガラリ一変した精神面の充実を示し、ぐいぐいチームを引っ張る様は、他チームにはない頼もしさを感じさせる。

工藤監督が目指す〝理想〟のバドミントン指導がようやく軌道に乗り、スピード感は他を圧するものがある。

大器・陣内も、ジャンプスマッシュ修得にあと一歩と迫り、その上高峯三姉妹の末っ子で中学チャンピオンの高峯尚子の加入があれば、ますます戦力アップとなるのは必然。

まずは熊本中央女が一歩リード、これを追うのが高松中央、新潟青陵、千葉学園、四条畷、小山城南、横浜立野ら、紙一重のグループである。



佃・真鍋組（高松中央）が貴重な先峰

大器の片鱗

◇男子シングルス

▼1回戦

井上哲章（熊商大付） 2―1 大堀　円（今市）

大島正志（今市） 2―1 若林邦任（水島工）

▼2回戦

井上哲章 2―0 寺島克朗（帯広柏葉）

山本裕幸（比叡山） 2―0 矢野成一（高知商）

井上哲也（足羽） 2―0 梅津裕一（伊勢工）

大島正志 2―0 丸山清春（東奥義塾）

▼準決勝

山本 2（15―15 15―12 17―16）0 井上（熊本）

大島 2（15―15 15―2 7―7）0 井上（足羽）

▼3位決定戦

井上（能商） 2（15―15 15―10 3―3）0 井上（足羽）

▼決勝

大島 2（15―15 15―12 7―7）0 山本

（大島は初優勝）

1回戦こそ苦しんだが、後半調子を上げた大島が、角度のあるスマッシュを有効に使って、大器の片鱗を示した。

昨年から、その手首の柔らかさからのストロークは異彩を放っていたが、スマッシュの重みが増したことで、いっそう剛と柔の組み合わせに変化がつき、安定感が出てきたといえる。

手首の柔らかさは、バックハンドの巧みさに現れ、強打のタイミング、スピードを殺すテクニックには高校生ばなれしたものが随所に見られ、フットワークに余裕が感じられるのは、これまた膝の関節の柔軟なことを意味するものか。

それでも、まだ未完を思わせるあたり、奥の深さを秘めた将来性抜群のプレーヤーといえる。

優勝候補のナンバー1といわれた井上哲章（熊商大付）は、思わぬ大敵〝風邪〟に見舞われ高熱を押しての出場。1回戦から集中力に欠ける試合だったが、遂に準決勝の山本（比叡山）戦では、1・2ゲームとも簡単に連続ポイントを許し大量リードを与え、苦境を乗り切ることができなかった。

しかし、ここに井上の問題が潜むのではないだろうか。

確かに〝セキ〟をしながらの試合では、闘志も萎えるだろう。集中力も散漫になるだろう。それは万人の同情を禁じえないものであるが、あえて井上が将来を嘱望されるプレーヤーである



ニッコリ笑顔の大島・大堀組

●男子個人戦

大島三冠王、

からこそ、本人にとって〝風邪だから〟ではすまされないものがある。

はっきり言えば、井上には勝つチャンスは何回もあった。2―12から挽回して、第1ゲームは先にゲームポイントを握ったのだから、当然そう思われる。

しかし、追いかけるときの井上は強いが、それがいったん追われる身になると、これがあの井上かと思われるような弱気なプレーを見せる。

中学時代から、天才プレーヤー〝九州に井上あり〟といわれ、昨年は準優勝の馬場と死闘を演じ、早くも優勝の折り紙をつけられ、エリート街道をまっしぐらに歩んできた。

が、ここにきて晩成だった同年代の選手達も力をつけて、互角の試合をするようになり、自然に井上は各選手の目標となり〝追われる者〟の立場となってきた。

井上が見せた〝弱気〟なプレーは、まさにその追われる者そのものではなかったろうか。インハイを、そしてその上を望むには格好の試練の場であった。

技術的には、格段の差が山本とはあったことに気づき、高熱と風邪のせいで敗れたと片づけないことが、井上にとって最も賢明な道だろう。

いずれにしても、大島、山本、井上の男子路線ということができる。

◇男子ダブルス

▼1回戦

西本幸夫（今市）
上田啓夫（高岡第一）　2―0　山道正義（高松商）

井上哲章（熊商大付）
吉弘健二（宇都宮南）　2―0　加藤義雄（宇都宮南）

▼2回戦

大島正志
大堀　円（今市）　2―1　西本幸夫
上田啓夫（今市）

青木隆久
西江　均（東岡山工）　2―0　駒込幸則（帯広柏葉）

鈴木洋史（東岡山工）　2―0　渡辺高博（帯広柏葉）

阿部浩志（山形商）
山本裕幸（富士見北）　2―0　天野幸司（富士見北）

馬杉武司（比叡山）　2―0　井上哲章
吉弘健二（比叡山）

▼準決勝

大島
大堀　2
（15―5　15―4）
0　青木
西江

山本
馬杉　2
（17―15　15―5）
0　鈴木
阿部

▼3位決定戦

鈴木
阿部　2
（15―7　15―8）
0　青木
西江

▼決勝

大島
大堀　2
（15―6　12―15　15―7）
1　山本
馬杉

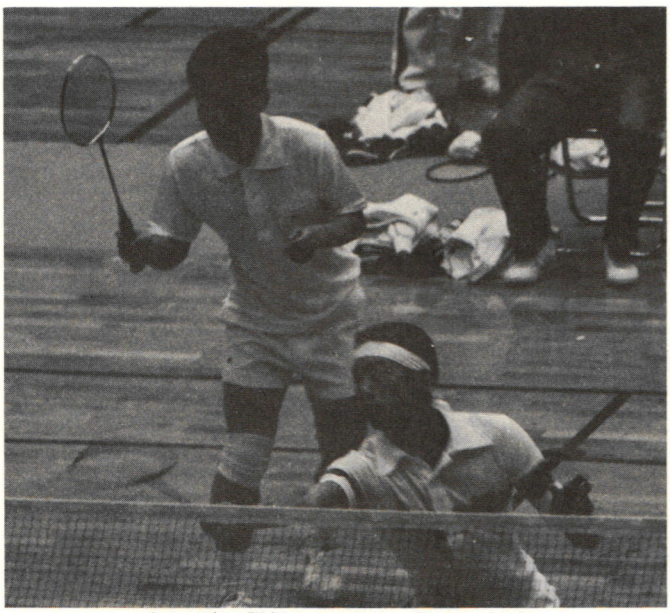
（大島・大堀組は初優勝）

完全に実力の違いを見せつけた種目となった。

優勝の大島・大堀組（今市）、準優勝の山本・馬杉組（比叡山）が図抜けた強さを発揮、見渡しても高岡第一の西本・上田組が食い込んでくるぐらいか、このままでは恐らくインターハイも波乱の余地がないように思われる。

あとは、今大会の地区予選でこの両ペアに敗れた中に埋もれた存在があるのではないか。

団体戦のシステムから、ダブルスの重要性が強くなってきたはずだが、なぜか好ペアを見出すことが困難だった。



実力は高く評価される山本・馬杉組（比叡山）

高峯組、完全に独走

（高峯・井村組は初優勝）

高峯・井村組が、スピードの違いをイヤというほど披露、断然の試合内容で完勝した。

高峯組に限らず、熊本中央女の鉄則は、相撲でいう「押さば押せ、引かば押せ」のそれ。「ただスピードをつけるのが目標、小細工を弄さずスピードとパワーさえ養えば、選手はかならず大成する」工藤監督のモットーが、選手にもようやく浸透した感がある。

とくに高峯は「ジャンプスマッシュの決定率が高くなった。ひと味違ってきた」（サントリー・山本監督）ように、誰の目にも歴然と映るほどの成長ぶり、「ジャンプの滞空時間が長くなった」「余裕が出てきた」と異口同音に、評判はなかなかのもの。

夏の大会では陣内と組むのではないか、と噂されるが、井村も高峯のリードに合わせてミスが少なくなった点で十分に合格。井村と組んでも、陣内と組んでも、恐らく高峯和子のダブルス制覇は、夏になっても動かないのではないか。

この春の時期に、絶対と断言することは危険と承知しながらも、あえて高峯和子の充実ぶりから、夏のダブルス制覇を手中にしたといっても、まんざら過言ではないような気がする。



一気に独走した高峯・井村組（熊本中央女）

◇女子ダブルス

▼1回戦

荒川圭子
平間真由美 2—1 天野真理（山陽女）
（小山城南）
野上満子
山内美子 2—0 高橋由美子（岐阜女商）
（新潟青陵）

▼2回戦

荒川圭子
平間真由美 2—0 佐藤啓子（千葉学園）
高峯和子
井村由美 2—0 山内佳子（高松中女）
（熊本中女）
松田全代
新木千織 2—0 瀬川真由美（四条畷）
野上満子
山内美子 2—0 湯沢紀子（小山城南）

▼準決勝

高峯
井村 2（15—5 15—5）0 荒川
平間

野上
山内 2（18—17 17—14 11—15）1 松田
新木

▼3位決定戦

松田
新木 2（15—4 15—2）0 荒川
平間

▼決勝

高峯
井村 2（15—6 15—4）0 野上
山内

◇女子シングルス

▼1回戦

高橋アキ子（小山城南） 2—0 神山知子（砂川）
平間真由美（小山城南） 2—0 原田美和（山陽女）

▼2回戦

野上満子（新潟青陵） 2—1 高橋アキ子
高島満里子（高松西） 2—0 藤永由香（千葉学園）
陣内貴美子（熊中女） 2—0 尾崎女美（四条畷）

●女子個人戦

野上、三冠を阻止

平間真由美 2—0 小川美智子（岐阜女商）

▼準決勝

野上 2（11—3, 11—4）0 高島

陣内 2（12—9, 11—5, 9—12）1 平間

▼3位決定戦

平間 2（11—2, 11—6）0 高島

▼決勝

野上 2（11—3, 12—9, 4—11）1 陣内

（野上は初優勝）

野上（新潟青陵）が、団体戦の雪辱を果たすとともに、熊本中央女の三冠を阻止、長身を利したスマッシュ、カットに冴えを見せた。

決勝は、まったく団体戦とは逆の経過をたどり、野上が追いかける形となったが、陣内（熊本中央女）がスピードに頼るのに対し、野上は〝タメ〟のあるフェイントの利いたカットを武器に冷静な試合運びで逆転に成功した。

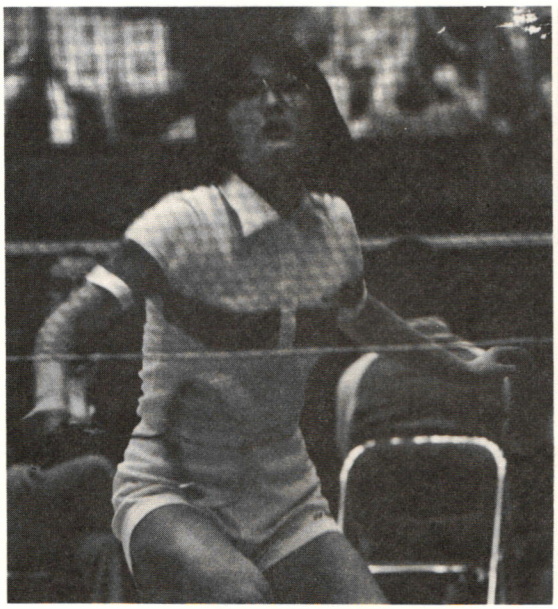
長身の上に、フォームに〝タメ〟のある野上のカットショットは絶品、陣内もしばしばノータッチを与えられ戸惑いの表情が見られた。

陣内は「大会前シングルスの練習をさせていなかった」（工藤監督）にもかかわらず、ドリブンクリアーとジャンプスマッシュのオンパレードでスピード感は随一。

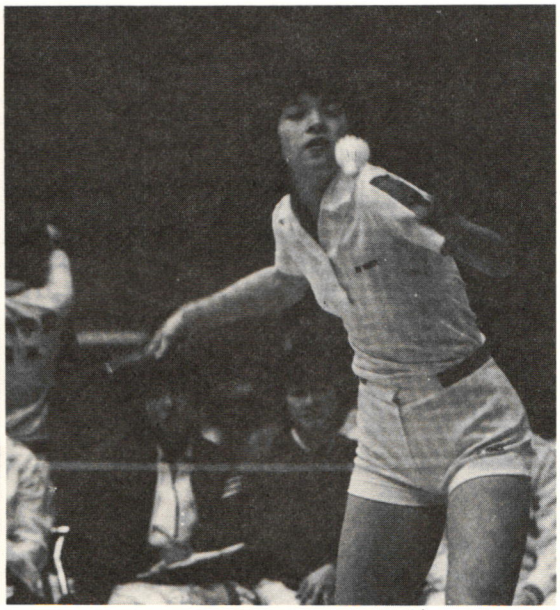
野上との第2ゲーム、サービス・リターンでたて続けにミスをするなど荒削りな面も顔を出したが、「魅力ある大器」（サントリー・山本監督）に変わりはない。

魅力といえば、今年は陣内をはじめ一年生の活躍がめざましく、走りに走ってベスト4入りを果たした平間（小山城南）個人戦には出場しなかったが将来性を感じさせる山内（高松中央）など逸材が揃って、期待をいだかせるに十分な顔ぶれだった。

現時点では、野上、陣内、平間、高橋（小山城南）、藤永（千葉学園）、高島（高松西）、尾崎（四条畷）、それに今回不出場の高峯（熊本中央女）、山内（高松中央）など紙一重というより甲乙つけ難い有望選手が目白押し、いずれがアヤメかカキツバタ、全国に散ったツボミがどんな花を咲かせて再会するか見ものである。



冷静なプレーの高島（高松西）



意地を見せた野上（新潟青陵）

独立のごあいさつ……赤星三樹

より健全な発展を

本誌「バドミントン界」をご愛読の皆さん、いよいよバドミントンに最適のシーズンとなってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、われわれ「バドミントン界編集部」は、日本バドミントン協会の法人化に伴なう独立問題で一年間にわたって頭を悩ましてまいりましたが、このたび、日本バドミントン協会の決定に従い、いっさい日本バドミントン協会から離れ、四月より「赤星出版株式会社」として独立することになりました。

読者の皆さんにご迷惑をおかけしないよう、入念な準備を整えて、ようやく万全のスタートが切れる体制となり、ここに独立第1回目の「バドミントン界・4月号」をお届けします。

〝真の報道性〟を求めれば、協会機関誌であることが最もふさわしい立場であるとはいえず、かえって独自の編集方針を貫くためには商業誌としての基盤を確立した上で、どこにも干渉されることなく、へりくだることなく発行できることが一番望ましいことなのですから〝独立〟はわれわれにとって願ってもないことといえるでしょう。

今までバドミントンの情報は〝与える側〟からの一方通行に終始してきました。しかし元来体制とは強いものであり、その強いものからの意思は必然的に伝達される性質を持っているとするなら、従来の〝与えられる側〟にこそ、意見発表の場、希望や願いを述べる機会があってしかるべきなのです。

そういった意味からも、独立はわれわれにとって、一般プレーヤーにとってまたとない喜ばしい船出になると信じます。

ひいてはそれが、日本のバドミントン界、あるいは日本バドミントン協会の健全な発展につながるものと確信するのです。

今後は、よりいっそうの中身の充実を図ってまいりますので、皆さんの変らぬご支援を強くお願いする次第です。

なお、新しく事務所が左記の通り決定いたしましたので、お問い合せ、お便り、お申し込み等をおハガキ、お電話でお願いいたします。

年間購読の方には、私どもが責任をもって毎月お届けいたします。

郵便振替口座は、現在申請中です。来月号にはお知らせできると思いますので、それまでは従来の口座番号をご利用ください。

（編集部）

新しい事務所は・〒152 東京都目黒区鷹番2―8―22―205

☎03―712―6952

新入部員必読の書!!

小島一平著 ガッツ!!バドミントン

――限りなき挑戦



第11回トマス・カップ・インターゾーンが行なわれたジャカルタでのこと。現地のファンは口々に「イッペイ・コジマはどうして来ないのか」「彼は元気か」「イッペイ・コジマのプレーは今でもよく覚えているよ」等々、われわれに質問を浴びせてきた。

それほど小島一平の名前は世界的に知られている。

本書は、その小島一平のすべてをさらけ出したものである。体当たり半生記、実戦アドバイス、わがライバルたち、の三部から構成され、巻末には主要大会記録・ルールも収録されている。

新入部員の皆さんにとっては、今すぐ役立つものであり、インターハイ、全国中学等の大会を控えて、ぜひお読みいただきたい書である。

ご希望の方は、本誌巻末とじ込みの振替用紙の「その他」の欄に「ガッツ・バドミントン」と明記のうえ、定価2000円と送料240円を添えて、お近くの郵便局からお申し込みください。バドミントン界編集部

◆日本図書館協会選定図書

藤沢にオープン

4/23(水) 10:00 START

元町ならではの
オープンならではの
大サービス！超特価！大奉仕！

4/23(水)～29(火)

オープニング・セール

4/23～5/31新入生歓迎フェア



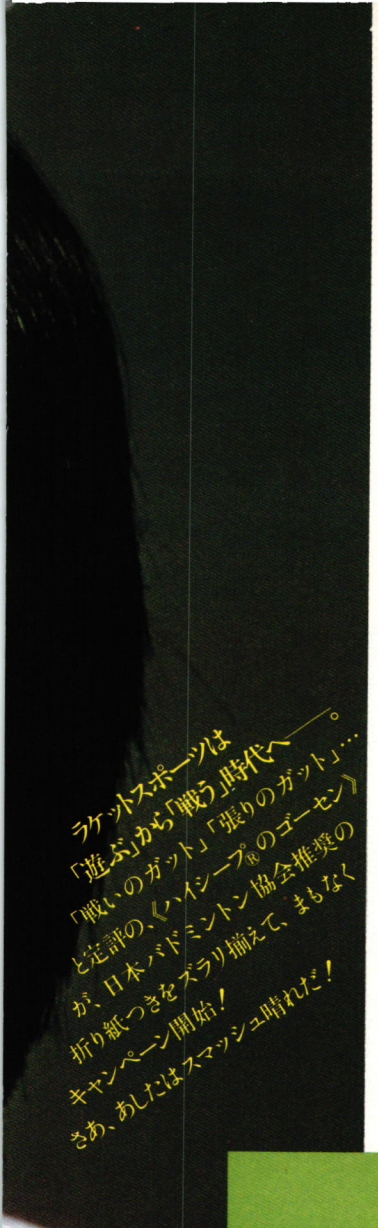
●藤沢店 テニス・バドミントン
☎0466－26－2552



ラケットショップ元町

●横浜元町店　横浜市中区元町5－203 〒231　☎045(651)2020
元町スカイビル5階　☎045(662)9857
4階　☎045(662)7133
●渋谷店　渋谷区渋谷1－25－6 〒150　☎03(400)7390
●池袋店　豊島区西池袋1－19－6 〒171　☎03(988)0215
●吉祥寺店　武蔵野市吉祥寺本町1－8－5 〒180
レンガ館モール3階　☎0422(21)7890
●藤沢店　藤沢市鵠沼字奥田1966 〒251　☎0466(26)2552
エスタ藤沢ビル2階

ラケットスポーツは
「遊ぶ」から「戦う」時代へ——。
「戦いのガット」「張りのガット」…
と定評の、《ハイシープ㈱のゴーセン》
が、日本バドミントン協会推奨の
折り紙つきをズラリ揃えて、まもなく
キャンペーン開始！
さあ、あしたはスマッシュ晴れだ！



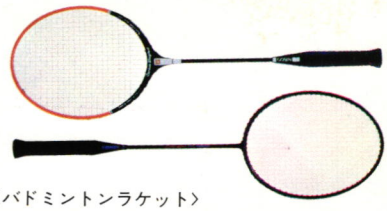
思いっきりいい100日間 いよいよ動きだすぞ！



キャンペーン期間中(5/1から8/8まで)●バドミントンラケットにTシャツかミニバッグがついてくるぞ。さらに抽選で同じラケットをもう1本！●シャトルのパッケージについているGOSENシールを送れば抽選で毎月50名にそれぞれ3ダースのシャトルが当たる……。●ガットのパッケージについているGOSENマークを切り取り送れば、抽選で毎月1000名にTシャツ、毎月500名にミニバッグ…もちろん、選択はキミまかせ。さあ！利用しない手はないぞ！このチャンス。詳しくは、お近くのプロショップ、スポーツ店で。



対象商品



〈バドミントンラケット〉
カーボンスラッグフェスト・RB-85、RB-80
グラボン707／プロケネックス302



〈シャトルコック〉
スワニー・ゴールド
スワニー・シルバー
スワニー・グリーン
スワニー・レッド
〈ナイロンシャトル〉
RSLシリーズ



〈バドミントンガット〉ウインテックス・ワイヤー
ウインテックス・カーボン／ウインテックス
ハイ・シープ／ハイ・シープ・スーパーゴールド
ハイ・シープ・スーパー／ハイ・シープ・デラックス
ハイ・オー・シープ

応募方法

パッケージについているGOSENマークあるいはシールを切り取り、住所・氏名・年令・職業(学校名)・所属クラブ名・お買い上げ商品名・お買い上げ店名を明記のうえ、封書で下記までお送りください。第1回＝5月末日、第2回＝6月末日、第3回＝8月8日抽選のうえ、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

応募期間

5月1日より8月8日まで(当日消印有効)

送付先

〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社**ゴーセン**
スポーツ用品部キャンペーン係

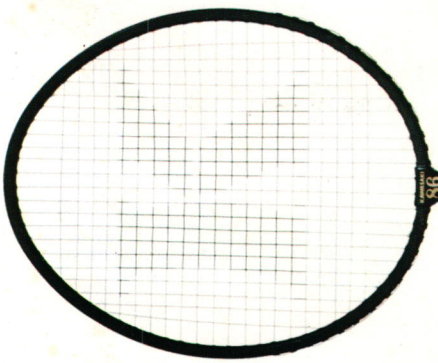
GOSEN

株式会社 **ゴーセン**

本　社	● 〒540 大阪市東区豊後町4	☎	(06)942-5816代
東京支店	● 〒111 東京都台東区蔵前4-14-2	☎	(03)862-6576代
福岡営業所	● 〒810 福岡市中央区薬院1-4-8	☎	(092)712-5247代
北陸営業所	● 〒921 石川県金沢市横川7-22	☎	(0762)47-0200代


JOY JOY CAMPAIGN
100 days
GOSEN
5月1日 キャンペーン スタート!
戦いにHi-Fiな感性を光らせろ!
BE IN RACKET SPIRIT





グラファイトシリーズ

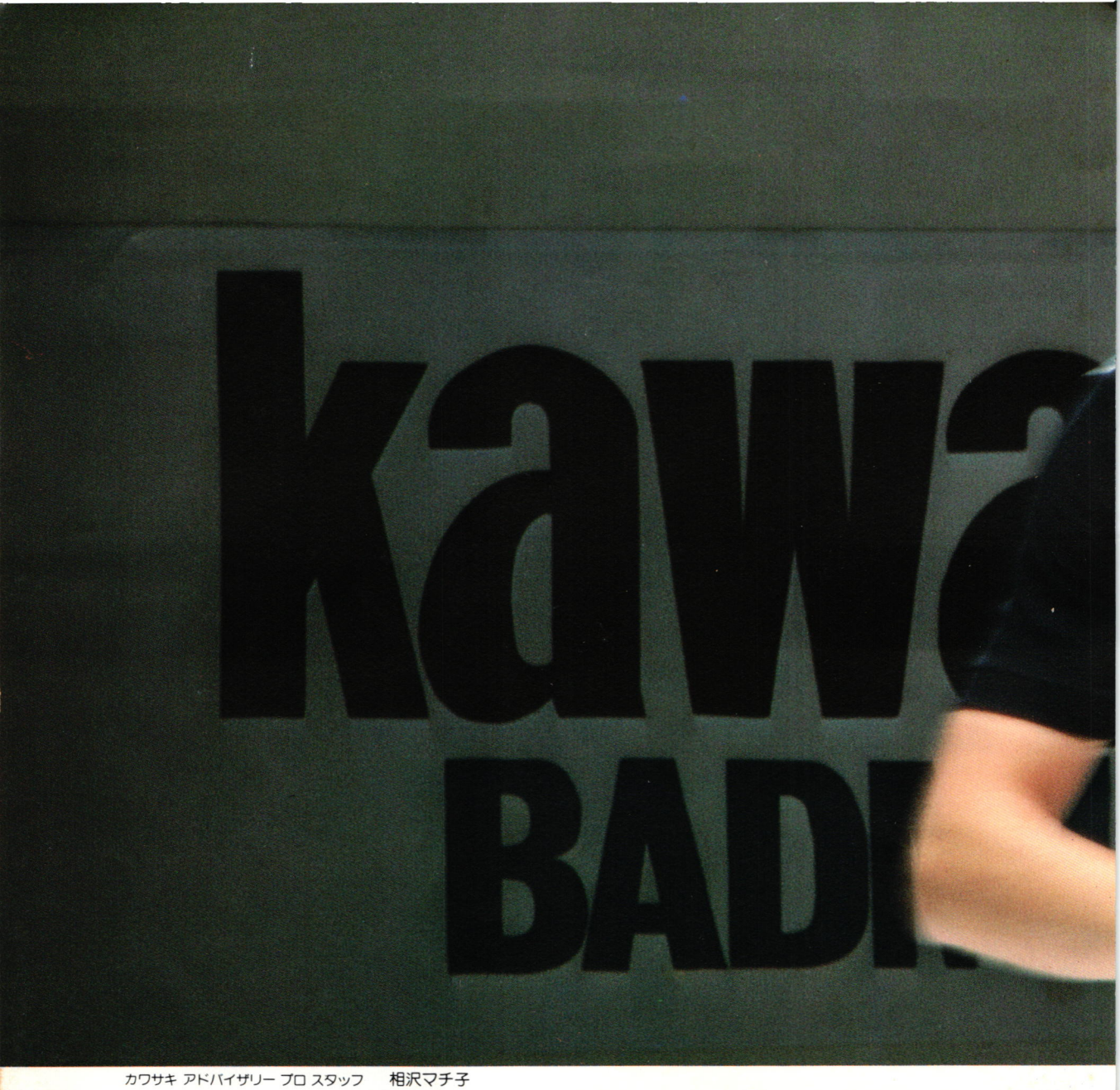
エイトシックス　B-86
グラファイトシャフト・グラファイトフレーム／黒(ケース付)
フレーム価格 13,000円



エイトツウ　B-82　フレーム価格 9,000円

エイティ　B-80　フレーム価格 8,500円

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



カワサキ アドバイザリー プロ スタッフ　相沢マチ子

いま世界に拡がる新しい打球サウンド

みがきぬかれた高度のテクニックと、時速250kmのスピードを競う世界のビッグトーナメント。白熱のコートで、続々と栄冠を勝ちとるエイトシックス。
トッププレーヤー絶賛の軽さと、強じんさ。そして、最新の打球サウンドを、あなたも体験してください。



辻クン、オメデトウ

日本の若きホープ辻敏弘選手（25）が、去る２月16日ついにゴールイン。花嫁さんは鷹鴫（たかのはし）由美子（25）さん。東京・ホテルグランドパレスには媒酌人・鈴木隆（法大監督）氏をはじめ、全国各地より集まったバドミントン・プレーヤー でいっぱい。辻クン、由美子さんの前途を祝福しました。



ヨッノご両人。キマッテルネー

この辻クンの神妙な顔





長谷川クンもご愛敬「今度はオレの番カモ、ウヒヒヒヒッ」



ナショナルチームの面々も駆けつけました

ハイ、足上げて



ハイ、手を上げて



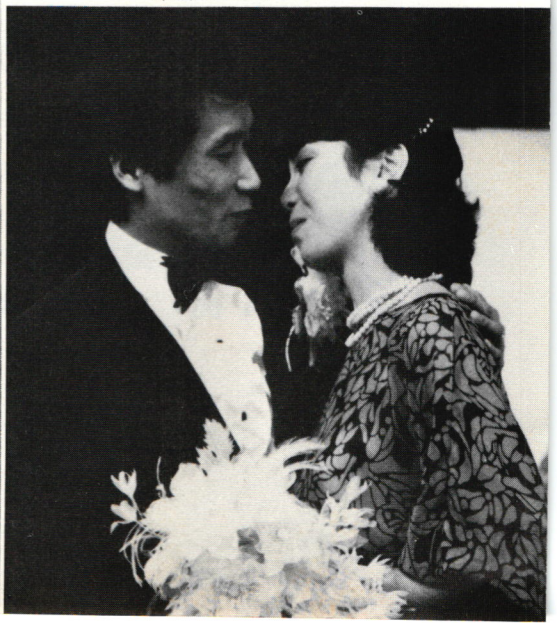


コラッ、花嫁さんがハシタナイ

緊張の一瞬〝ケーキ・カット〟



本当にヤルカナー！





世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

●連載①飛躍する日本リーグ・チーム紹介

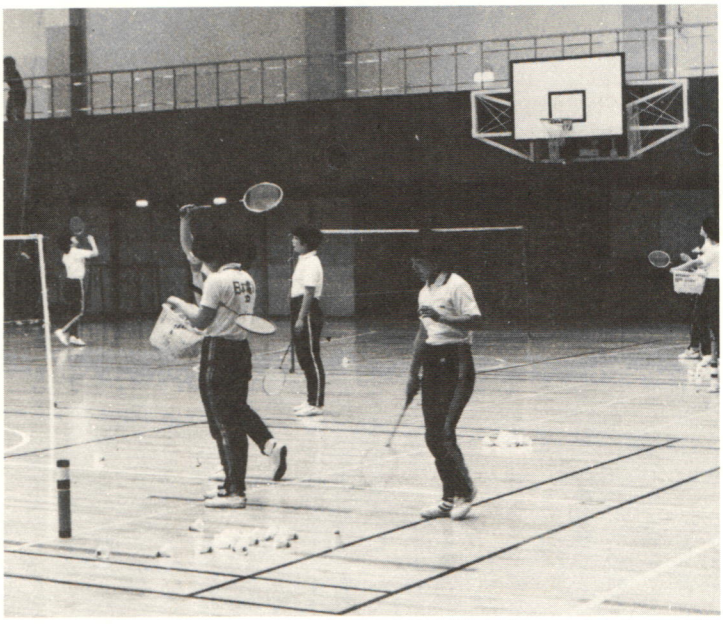
出場から勝つことへ

●日本電装チーム

第1回バドミントン・日本リーグは大成功裏に幕を閉じましたが、各チームは早くも次回へ熱い闘志をたぎらせています。

読者の皆さんから再三ご要望がありました〝チーム紹介〟の連載をここに始めることにいたします。

第1回目といたしまして、今月は「日本電装」チームに登場いただきました。



「日本電装」通称〝デンソー〟は、クラブ発足3年のまた初々しいチーム、日本リーグでも新風を送り込んでくれましたことは記憶に新しいことです。

新年度を迎え、従来の戦力に加え大学卒のプレーヤーも入部して、ますます意気軒昂な〝デンソー〟チーム。

皆さんのご声援をこころから期待いたします。

まず〝一勝〟を!!

日本リーグ出場は、私どもにとってはまことにもって、出来すぎだったといいますか、出場させて頂いただけで幸せでした。光栄の至りでした。

ウチのチームは、高校卒の選手ばかりで、二十歳が一番年上という、経験もなければ勿論実力の違いが歴然としているのは判り切ったことでしたが、地元紙でも取り上げて頂いて、コートマナーをお誉め預ったように、敗れてもコートマナーだけは見苦しい真似をしないようにと、その点だけに心を配りました。

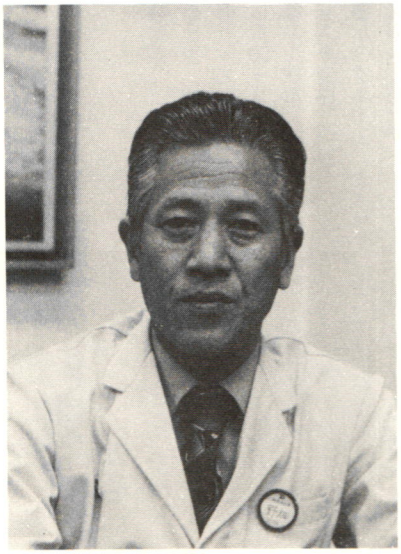
幸い、藤江監督の方針もそうでありました。配慮がゆき届いて、大過なく終了できたことを本当に喜んでおります。

プレーの面でも、54年度入社したばかりの片山が、ヨネックスの飯野さんを相手に、1ゲームを取る健闘を示してくれましたし、ラブ・ゲームでもいいから全力を尽してこい、という指示を守ってくれました。

今回は、初めから勝とうなどと思ってもみませんでした。ただだいい試合をするように心掛けました。

第1回目は、出場するということにウチとしては深い意義があった訳ですが、次回には是非とも〝1勝〟を挙げたい（声が大きくなる）と思っております。

日本リーグが終わって二ヵ月



野田亘部長

経ちましたが、その間に行なわれた愛知県の後期リーグでは、トヨタ自工さんと堂々と戦っていましたし、だいぶ自信を付けてきたような気がします。

日本リーグに出場したことが、目に見えない無形の財産になったようです。

今年の新入社員も、3月初めに合流しまして寮生活に入っております。

琴電さんなどの実業団チームに胸を借りて、練習量も十分に積んでいますし、今年は何といっても日本リーグに〝1勝〟。そして全日本実業団にはベスト8入りを果たしたいと思っております。

社内的にも、日本リーグ出場ということで注目を集めて期待も大きいのですが、部員全員が監督の指示によく従っていますから、期待に応えてくれるのではなかろうかと思います。

これからもビシビシ!!



藤江至監督

日本リーグへ出場したメンバーは、ほとんどがインターハイ1回戦敗退した者ばかりで、正直なところ、技術もコートマナーも心配でした。

しかし、経験させたおかげで精神的に強くなったし、パワーアップを考えるようになりました。そして、監督である私にも大変いい勉強になりました。

幸い今年は、大学からも新入部員があり、出場するだけでなく、勝ちを意識できるチーム作りをしていかなければなりません。

サントリーさん、琴電さん、百十四銀行さんと、実業団の強豪に交流して頂いていますが、今年はまず実業団ベスト8入りを果たし、日本リーグでは〝一勝〟を挙げようと思っています。

私自身、高校大学を通じて無名のままでしたが、自分ができなかった分、果たせなかった夢を部員に託したいのです。

バドミントンを一生懸命やって良かった、という気持を味わってもらいたいし、それで勝てれば最高、皆んなにはこんな田舎に来てくれて感謝しています。

会社は、仕事は勿論一人前にこなさなければならないし大変だと思いますが、それだけにやりがいもあると思います。

部員一人一人にとって、貴重な青春の思い出になってくれればいうことありません。

それには、やはり勝つことが第一、ときには私生活の面でも、うるさく口出しして厳しいかも知れませんが、これからもビシビシ鍛えようと思っています。

涙もろい話好き

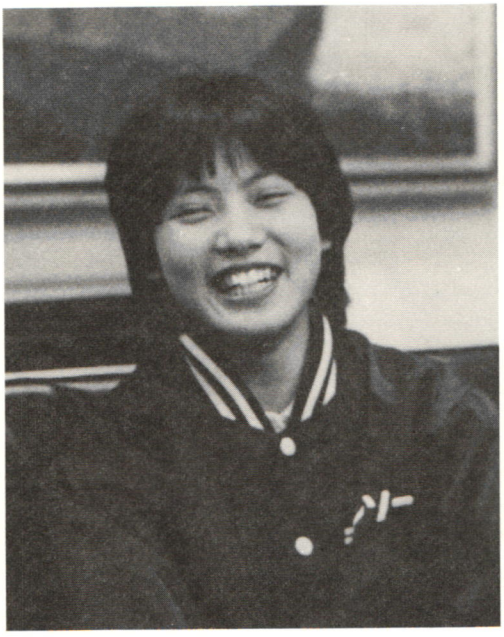
水谷　昌代



●年齢　二十一歳
●出身　三重県松阪高
●サイズ　身長1メートル55、体重50キロ
●主な戦績　昭和53年愛知県社会人単優勝
●ニックネーム　ミズマサ（小政という感じ）
●日本リーグ体験談　日本リーグに出場して、あがっちゃう性格なのでこれから直していかなければと思った。やはり第1日目の学生チームとの1ゲーム目は、緊張して打とうと思っても全然思うように打てなかった。あとはただ、がむしゃらに粘っていこうと思っただけ。瞬発力や持久力をつけるため、トレーニングの必要性を感じた。
●部員の声　我慢強い人。試合に勝っても負けても、あまり生活に影響を受けない、ごく平凡だけど芯の強いところがある。コート内同様、ふだんもよく動くが、いったん腰を落ち着けると夜どおし話し込むほど話し好き。涙もろい面がある。
●趣味　松山千春が好き。（歌の雰囲気が）

つねにドロップ

●年齢　二十歳
●出身　静岡県藤枝西高
●サイズ　身長1メートル65、体重53キロ
●主な戦績　昭和54年愛知総合単2位
●ニックネーム　ドロップ（常に落っこちている）



きれい好きな大蔵省

●年齢　十九歳
●出身　静岡県藤枝西高
●サイズ　身長1メートル62、体重53キロ
●主な戦績　昭和53年東海総合複3位
●ニックネーム　オダちゃん
●日本リーグ体験談　今考える

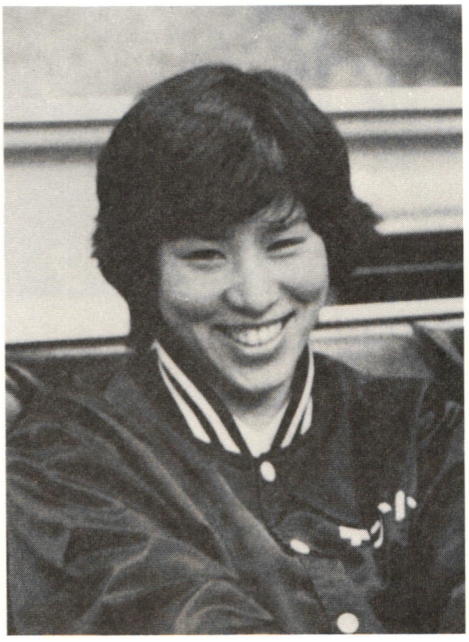
と出場できたことにビックリ!!高岡市でのカワサキとの試合で、リードしていた試合を逆転されたのが思い出に残っている。一流プレーヤーと試合ができて大満足。日本リーグが終ってからは、ひとつひとつの動作にも気を配るようになった。

加塩　淳子

●日本リーグ体験談　一番印象に残ったのが、第1日目の学生との試合で、ファイナル・ゲームで負けてしまった。コチコチに固くなって、自分のプレーができなかった。たまたま写真を撮ってもらったら、徳田・高田組にノータッチをさせたところが写っていたので、あんなこともあるんだなーって思った。出場したのが自信になって、県内の試合に落ち着きが出てきた。
●部員の声　のんびりしていてペタンペタンと話す。お風呂の火をつけるのは忘れないが、ときどき消すのを忘れる。スロースターターでファイナル・ゲームに強い。（つまり鈍い？）
●趣味　料理作り。特に茶碗蒸しが得意。（部員全員が絶賛）

小田あさ子

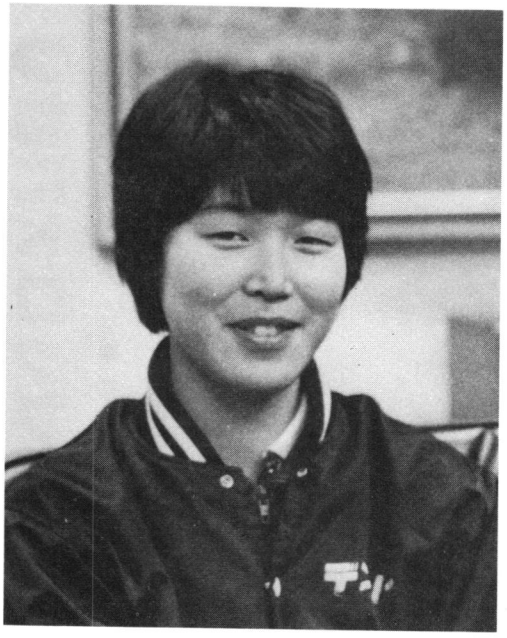
●部員の声　ネズミ年なので始終チョロチョロ動いて、きれい好き。細かいけど、ときどき大ポカがある。チームの財布を預かる大蔵省。意見をハッキリ言える人
●趣味　レコード鑑賞。（念願のカセットを買ったので、かぐや姫とかフォークソングを聴いて　いる）



寝相には定評？

片山りつ子





与えられた物は……

遠藤美枝子

●年齢　十九歳
●出身　静岡県藤枝西高
●サイズ　身長1メートル59、体重58キロ
●ニックネーム　ドラエモン
●日本リーグ体験談　バドミントン界の最高峰の試合に出られ、一流プレーヤーの人達と接することができ幸せ。どの試合も拾って拾いまくろうと思ってやった。飯野さんのときはとにかく相手のコートに入れることしか考えていなかった。
●部員の声　目覚まし時計が鳴っても、無意識のうちに音を消してすまして眠っている。（本人は周りに気を遣っているという）寝相が悪く、夜中に何回転もするほど。やはり同室のオダちゃんと同じネズミ年で、競うように掃除を始めると止まらない。
●趣味　歌が好きでしょっちゅう口ずさんでいる（かなり上手とか）



豪傑笑いで百円安

●年齢　二十二歳
●出身　山形県新庄南高、東京女子体育大
●サイズ　身長1メートル59、体重58キロ
●主な戦績　昭和54年全日本学生複ベスト16、単32
●ニックネーム　バクダン
●入社して、えらい田舎に来てしまったような気がしたが、会社は将来性バツグンだし、いいところへ来たと思った。入部したとたん一番年上という変則ですが、環境に恵まれているから頑張りたい。
●部員の声　お姉さんという感じ。気を遣ってくれるし、一見とっつきが悪いように受けるが、実際はとても明かるい。笑い声がケタケタ、クシャミがクチュンと、とても面白い。

小松　澄子

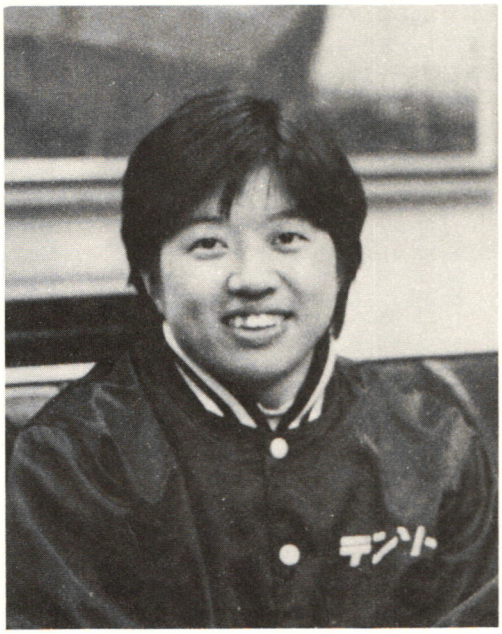
ケタケタ、クチュン

皆川　詔子

●年齢　十九歳
●出身　福井県敦賀工高
●サイズ　身長1メートル66、体重55キロ
●ニックネーム　エンゴリ（与えられた物は何でも食べてしまうから）
●日本リーグ体験談　試合には出られなかったけど、コートに入って練習でき感激した。高岡市の観衆（四千五百）には驚いた。おかげで度胸がついたような気がする。
●部員の声　まず入部した初日に、ドンブリ3杯のお替りをした豪の者。独創的な料理を作り、素材を大きく切るのが特徴。工業高校出身で男子の中でもまれたせいか、何事にもおおらか。電車の駅を乗り過ごすこともしばしば。男性的でユニークな性格だが、最近はだいぶ区画整理されてきた。
●趣味　食べているか寝ている。



口から生まれた……



吉田東美江

生複ベスト16、昭和50年全国高校単ベスト8

●ニックネーム　オヤビン（オヤブンにはちょっと欠ける）

●入社して　山形にはこんな大きな会社はない、というのが印象の第一。部員の皆んながとても明かるい。

●部員の声　人の気持を波み取ってくれ、非常にしゃべり易い。目に見えないところまできれいにするきれい好き。笑い方が、一気にタメを爆発させるような豪快な笑い、これでイメージが完全に崩れた。

●年齢　十八歳

●出身　岐阜県揖斐高

●サイズ　身長1メートル55、体重53キロ（サウスポー）

●主な戦績　県で1度単2位になった

●ニックネーム　ガッチャ（ガチャガチャうるさいから）

●入社して　クラブに入ってみて、チームワークがすごくまとまっているので早く一員に溶け込みたい。自分のために何でも吸収して、大きく成長したい。

●部員の声　口から生まれたように、ひと言いうところを、ふた言もみ言もいう雄弁家。何事も一生懸命受け入れようと、素直によく聞いてくれる。そろそろホームシックにかかったらし

マンガチックな北の湖

畑原　博美



く、田舎からの手紙を読むたびに涙ぐんでいる。（おかげで静かになった）

●年齢　十八歳

●出身　福井県福井高

●サイズ　身長1メートル56、体重62キロ

●主な戦績　福井県単1位、中部高校単3位

●ニックネーム　北の湖（四十五度の角度からだとソックリ）

●入社して　会社がすごく大きいと思った。クラブの人達が皆んなよく動くのでびっくりした。

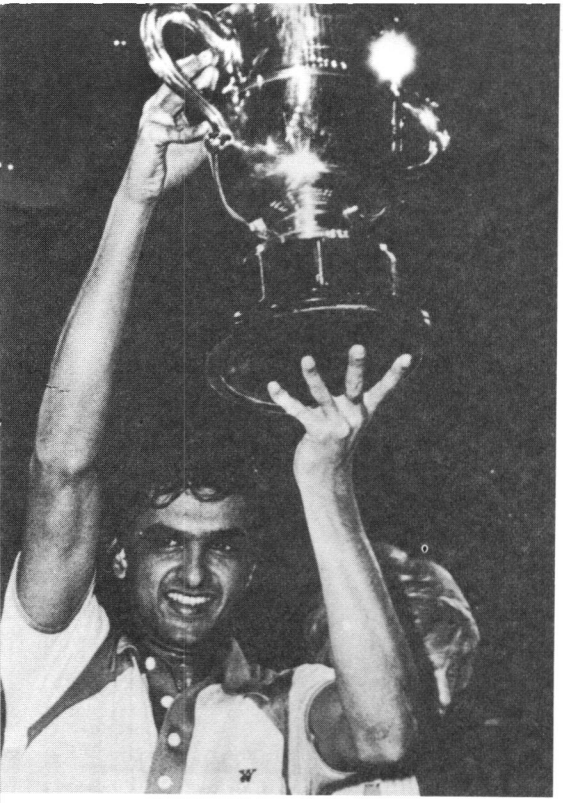
●部員の声　のんびり屋。歌がうまい（演歌からフォークまでレパートリーが広い）のに、誉めるととても照れる。

●趣味　マンガを読むこと。（夜中にひとりでクスクス笑っている）

第70回全英バドミントン選手権大会★速報★3・19―23★ウェンブレー・アリーナ

リム・スイ・キン敗る

プラカシュ、インドへ初のタイトルを!!
コーペンはベラワティを振り切って連覇



←インドの星・プラカシュ・パデュコーンはついにビッグ・タイトルを手にした。リム・スイ・キンが異常なプレーであったとはいえ、その実力は高く評価されよう。優勝カップを高くかかげる表情には満ち足りたものがある。〈共同提供〉

バドミントン競技史上最高の歴史と、すばらしい伝統と誇る全英バドミントン選手権も今年で第70回を迎え、この大会にも時代の波が押し寄せ、今大会から賞金がかけられることとなった。

ユーバー杯防衛戦を来年に控え、わが国は女子は最強メンバーを、男子もナショナルチームを派遣した。

しかし、インドネシアをはじめ、デンマーク、イングランドもライセンス・プレーヤーを中心に最強の布陣で大会にのぞんだ。

そして、男子シングルスでは三連覇は確実とみられたリム・スイ・キン（インドネシア）が、インドの星、パデュコーン・プラカシュにストレート負けを喫するという大番狂せが起こった。

何度挑戦してもそのカベを破れなかったプラカシュが、全英選手権という最高の舞台でインドへ初のカップを持ち帰ることとなったのである。

情報によれば、前日までの好調さとうって変わり、リム・スイ・キンは見るも無残な不調ぶりだったという。打てばサイドラインを割り、バックラインを越し、選べば〝イン〟という状態で、1ゲーム目はなんと10分で終わったのである。

インドネシアというお国柄から、この不調の真の原因を知ることは不可能と思われるが、おそらく重大なアクシデントがあったもようである。

日本は、期待の銭谷は二回戦で姿を消し、土田、尾崎、長谷川も三回戦で、飯野は二回戦、辻は一回戦でそれぞれ早々に敗れ去った。

一方女子シングルスは、石田が三回戦で、高田が二回戦で敗れたが、他の選手は上位へとコマを進めた。そしてベスト8に、米倉、湯木、近藤が名を連ねたが、湯木はベラワティ（インドネシア）に6―11、6―11で敗れ、昨年準優勝の近藤もデンマークの新鋭ラーセンに5―11、9―11で敗れた。

米倉は健闘し、ブリッジ（イギリス）に6―11、11―0、11―2とファイナルゲームの末降してベスト4へ進出した。しかし、準決勝ではベラワティの前に4―11、9―11で敗れ、決勝進出の夢は断たれた。

決勝はこのベラワティと、デンマークの誇るコーペンとの対戦となり、断然安定感の増したコーペンが11―2、11―6のストレートで優勝。二度目の女王の座を獲得した。

ダブルスは、昨年ベスト4に入った飯野・土田組に期待がかけられたが、低調に終わり、ベスト4入りはならなかった。

決勝は、チュンチュン、ワジュディ組（インドネシア）と地元イギリスのトレジェット、スティブンス組との対戦となり、ファイナルゲームの接戦の末、チュンチュン、ワジュディ組が勝ち、4年連続6度目の王座についた。

日本最後の期待をこめて女子ダブルスもがんばった。が米倉・徳田組はビューセコム、リダー組（オランダ）を15―10、15―9のストレートで降し、近藤・高田組もインドネシアの若手ペア、イバナ、チャン・ソー・ガン組を15―9、18―15で降し、ベスト4へ進んだ。

そして、米倉・徳田組は昨年のチャンピオ

チュンチュン・ワジュディ4連勝6度目

日本ついに2年連続の無冠

夢のペア、ギルクス・ペリー見事に栄冠



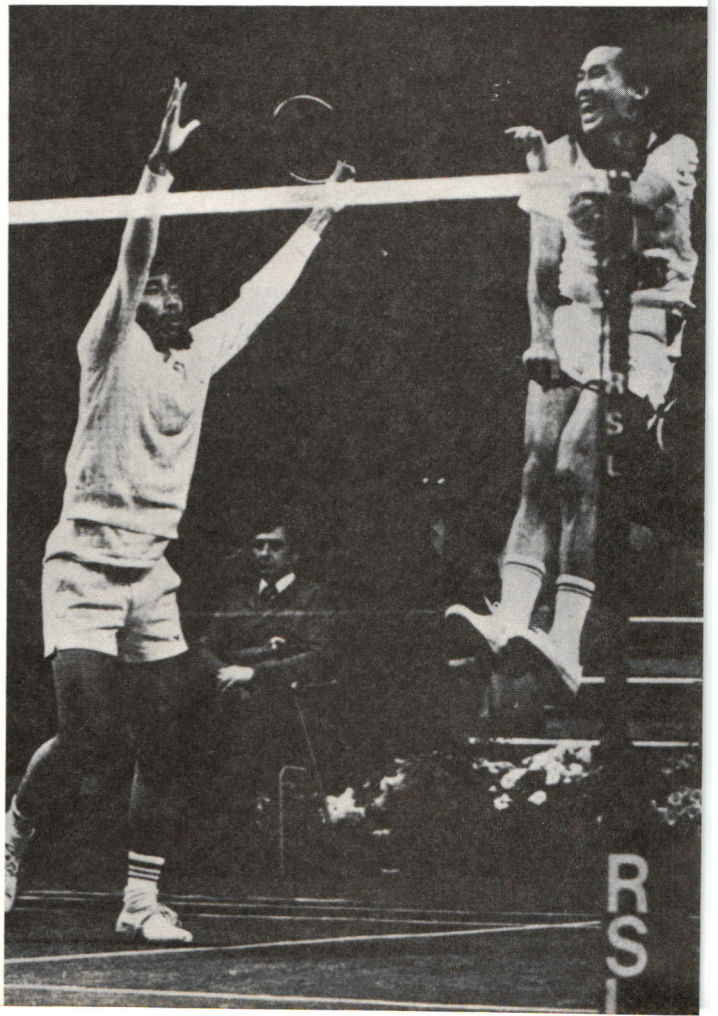
リーン・コーペンは昨年につづいて2連覇をとげ、その女王の座を不動のものとした。➡
チュンチュンとヨハン・ワジュディは、やはり世界一だった。地元のトレジェット・スティーブンス組に食い下がられながらも、ファイナル・ゲームの末優勝すると、ワジュディはコート上でとび上がり、チュンチュンは両手を上げて走り寄った。➘
〈共同提供〉

ン、イメルダ、ベラワティ組を15―11、17―16で降して決勝進出を果たしたが、近藤・高田組は、イギリス最強のペア、ギルクス、ペリー組に5―15、5―15の一方的スコアで敗れた。

オールジャパン、ワールドカップを制している米倉・徳田組だったが、ギルクス、ペリー組には15―11、7―15、6―15で敗れ、ついにカップを持ち帰ることはできなかった。

この結果1969年に湯木が女子シングルスに優勝して以来、毎年カップを持ち帰っていたが（1976年は中国加盟問題にからみ、日本は不参加）、ついに昨年に続いて二年連続の無冠となった。

なお、詳細については次号に掲載の予定です。



やるだけはやった

3月4日～10日（上尾市）ナショナルチーム合宿

来たる全英選手権（3月19～23日・ウエンブレー）に備え、ナショナル・チームの強化合宿が、2月4日から1週間、埼玉県上尾市・東邦レース体育館で行なわれました。

参加者は、選手強化委員長の杉田安雄監督をはじめ、池田信孝コーチ兼選手（電電東京）、梅野尾昌一（ヨネックススポーツ）、尾崎幹雄（電電東京）、銭谷欽治（河崎ラケット）、飯野佳孝（ヨネックススポーツ）、土田証雄（電電東京）、辻敏弘、長谷川博幸（ヨネックススポーツ）、西山博司（中大）の男子10名。

徳田敦子（サントリー）、近藤小織（河崎ラケット）、高田幹子（サントリー）、米倉よし子（電電東京）、関根和子、大塚ソノエ（ヨネックススポーツ）、東海林文子（サントリー）選手の女子7名。

前半だけ参加した中井基夫、湯木博恵（河崎ラケット）、石田ひとみ（日女体大）選手を加えると延べ20名にもおよぶ、大世帯での合宿となりました。

簡単に練習内容を紹介しますと――。

7：30　起床、
8：00　朝食。
9：00～11：30　1時間屋外をランニング。体育館でダッシュ、バック走、腹筋、背筋、柔軟体操など、ラケットを握らず基礎体力の養成。
12：00　昼食。
2：00～5：30　基本練習、2対1のクリアー練習、2対1のフリー。試合形式は合宿後半だけ。
6：00　夕食。
7：00　入浴。
11：00　消燈。

といった具合い。

各選手とも、原点に戻ったような高校生なみの反復練習に、心身ともにグッタリ。

土田選手が途中でダウンするなど、異口同音に「苦しい」の連発。しかし疲れてはいても、一日中じっくりとバドミントンと取り組めるため、選手の顔は生気潑らつとした様子がうかがえました。

「疲れは出てくるが、体が締ってくる感じ」（銭谷選手）、「東京へ戻ってからも、この体調を維持できるかがカギ」（梅野尾選手）と、各選手は成果ありといった表情。

杉田監督は、「このような苦しい練習をすると、普段走り込んでいるかどうかがよく判る。銭谷、湯木などは相当やっているね。若手では西山、東海林がさすがに軽い感じでタフだな。今度の合宿は、トマス杯前の合宿よりキツイ、と選手が言っているように、体力的に大変だと思う。しかしこれは、精神力、忍耐力をつけるのが目的だから、乗り越えてくれなくては困る。こういう基本を大切にした合宿を、もっとやらなければダメなんじゃないかな」と意気軒昂、池田選手兼コーチは「本来ならナショナル・チームなんだし、こんな基本的なことは時間の無駄かも知れないが、最近欠けてきた日本人の忍耐力というものを取り戻すため、敢えて精神的にも肉体的にも辛い反復練習を繰り返している。こんなときは男女混合の良さが出ると思う。過去の名選手たちも、何度も負けそうになりながら逆転して栄光を摑んできた訳だから、その忍耐力を思い出させるために――。

西山や、東海林、関根などにはいい刺激になっていると思う。

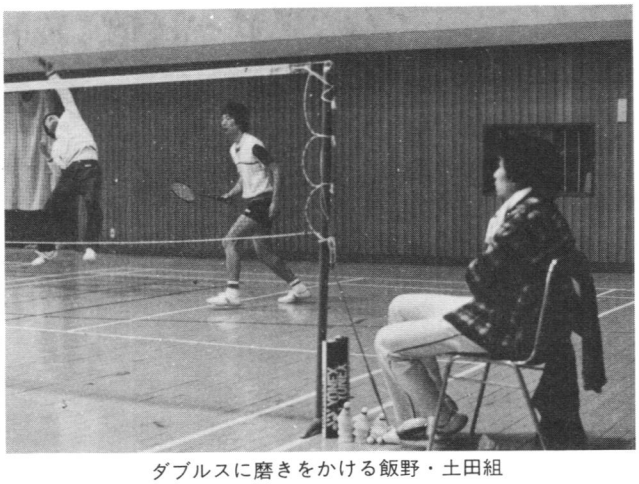
ボク自身も最高の調子。体は疲れているが気持の問題だから、若手の面倒を見ることが自分自身の気持を引き締めてくれている」と、それぞれ感想を語ってくれました。



温かいまなざしの杉田監督



「万全を期してがんばろう」



ダブルスに磨きをかける飯野・土田組

息を抜くのは食事どきだけ

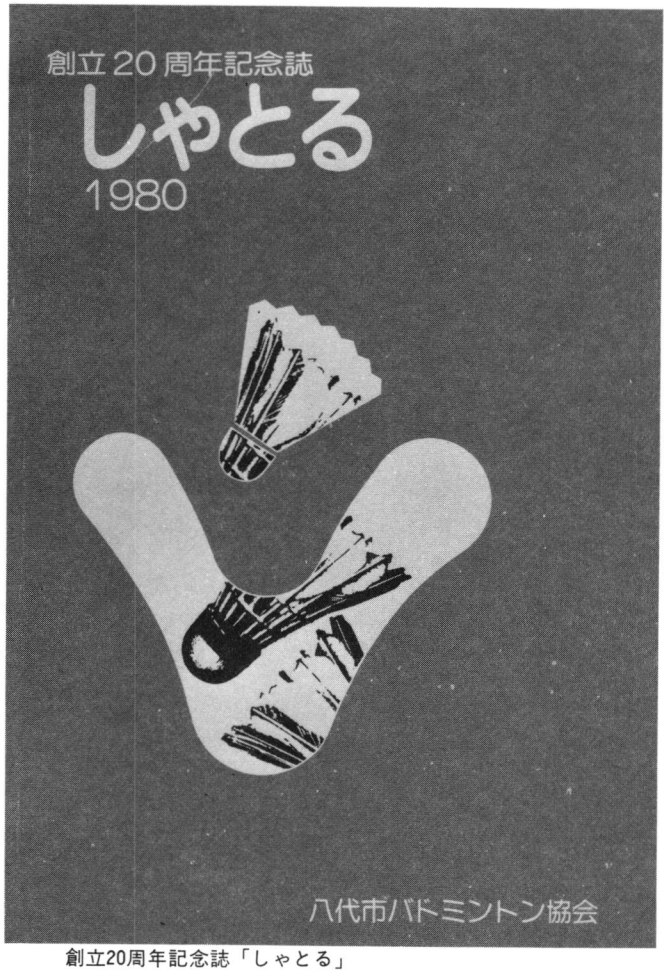




おめでとう「創立20周年」八千代市バドミントン協会

ジュニアの指導に脚光

記念誌「しゃとる」が発行される



創立20周年記念誌「しゃとる」

このたび、創立20周年を迎えた八千代市バドミントン協会が、記念行事の一環として、記念誌「しゃとる」を発行いたしました。

同協会は、昭和34年3月7日会長・桶田辰雄氏、副会長・勝又清孝氏、理事長・名和達夫氏という顔ぶれでスタート。

当時の加入団体は、興国人絹、三楽酒造、営林署、労災病院、八千代東高校定時制、市役所の6団体でしたが、現在では約六百名の会員を擁するまでに大きく成長しました。

現在の役員は、会長・元島正信氏、副会長・山本義人氏、蓑田美昭氏、理事長・橋口実男氏です。

また、八千代市は、全国でもジュニアの養成に熱心なことでも有名。現在活躍中の原口恵子選手（サントリー）、権藤浩二選手（日体大）など、数多くの名選手を輩出しつづけ、躍進めざましいものがあります。

この記念誌「しゃとる」は、八千代市バドミントン史ともいえるすばらしい年鑑となって、同協会の全貌を手に取るように見ることができます。

ここに、創立20周年のお祝いを述べるとともに、「しゃとる」からジュニアチームを抜粋してご紹介いたしましょう。

原口さんにつづけ!!

代陽スポーツクラブ バドミントン部

昭和44年に発足した代陽バドミントン部は、代陽スポーツクラブ設立の主旨である、競技を通じて体力の増強をはかり、健全な精神の育成をめざすことを目標に、楽しくプレーできる環境を醸成し、部員相互がよろこんで競技に参加することにより、スポーツの底辺拡充と人間関係を確立するため、一環した方針で10年間の歳月を歩いてきた。

カッコ良いスコートが魅力で入部する子。

好きでたまらず入部する子。

お姉ちゃんがやってたので入部する子。

お友だちと話し合って入部する子。

入部の動機はそれぞれ異なっていても、指導の先生方と部員が一体となり、家族的な雰囲気の中で楽しく練習を続けている。

先生に抱かれる子、背におんぶされる子、まさに家族そのもので、恒例の夏の合宿キャンプも、初めて母親の手を離れて参加する子もいる中で、引率の先生の苦労も忘れさせてくれるほど、楽しく想い出深い行事の一つである。

過去に打立てた先輩たちの金字塔は不滅である。原口さんを初め、諸先輩が獲得した幾多の優勝は、いまなお代陽バドミントン部の頭上にさん然と輝いている。

これからも全部員が、代陽スポーツクラブの精神にのっとり、先輩たちが築き上げてくれた栄光の座を守り、いつまでもその燈を燃やし続けていきたいものである。

代陽スポーツクラブバドミントン部



代陽スポーツクラブ

「アウト」が「アゲン」

高岳(高田)スポーツクラブ バドミントン部

高田小にバドミントンクラブが誕生してから、早いものでも四年近くになりました。初め20名位だった部員も年々増えてきて、現在52名の大所帯になっています。今の部員は全部女子で、男子部員が今年からいなくなったのはちょっと残念です。

練習日は月・水・金曜日の週三日間で、時間は放課後の1時間半位です。どこのクラブも同じと思いますが、部員が多いとコートの割り振りが大変です。現在まだ高田小には体育館がありません。今から41年前の昭和13年にできた古い講堂に、コートを作って練習していますが、天井が低く、バドミントンの生命ともいえるハイクリアーの練習がほとんどできません。そのため練習試合のときなどは大変です。あまりにも天井が低いので、シャトルが天井に当っても「アウト」にせずに「アゲン」と言って、やり直しで試合を行っていますが、「アゲン」が多いときは試合がなかなか進まず、次の試合者がシビレを切らすほど待たされることもしょっちゅうです。しかし子供たちは、あまり気にもせず一生懸命練習しています。

私たち指導員は、一日も早く体育館ができて子供たちに力いっぱい練習させてやりたい、と念願しています。

高岳(高田)スポーツクラブバドミントン部



高岳スポーツクラブ

Eの項

Eastern grip イースタン・グリップ。ラケットの握り方の一種で、主としてフォアハンド・ストロークを処理するのに使われる。しかし、このままでバックハンドを打つ人もおり、応用範囲が広い。これは掌（てのひら）部分が、ラケットの握りの部分の側方（右利きの人なら右側）に来て、ラケット打面と掌が同一方向を指すような握り方である。右利きの人の場合なら、左手で打面が地面と垂直になるように保っておき、その打面の中心に右手を広げて掌を当て、その手をそのまま手もとに引いてきて、掌がラケットの握り部分に当ったら、その位置を動かさないで握ると要求されるこのグリップになる。別名シェークハンド・グリップ（shakehand grip＝握手の形）ともいう。

このようなグリップでフォアハンド・ストロークを行った場合、オーバーヘッド、サイドアーム等の打球点のいかんにかかわらず、腕、掌、打面の進行方向（向き）がほぼ一致するため、スウィングに加える力やスピードにムダがなく、しかも無理なく打面をフラット（ネット面に平行）に保って振り進めることができる。

バドミントンのグリップは原則として、より古い歴史を持つテニスのグリップを準用したもので、このイースタン・グリップも米国東部のテニス・プレーヤーたちがフォアハンド打法に適した握り方として開発したものの応用、といわれている。

☞ grip, English grip, Western grip

elimination エリミネーション。この語の動詞である eliminate（エリミネート）は〝～を～から除外する〟意味。したがって、スポーツ用語でのエリミネーションは〝負けたものを、競技会から除外する〟になる。これから発展して予選の意味でも使われる。elimination heat（予選。予選のレース、組）、first elimination（第1次予選）、double elimination（敗者復活戦制の試合）など。ただし、elimination tournament といった場合は、敗者が次々ふるい落とされていく、いわゆる勝ち抜き戦をさす。

end エンド。これにもさまざまな意味があり、フットボールなどではプレーヤーのポジション（位置）を意味するが、バドミントンではすでに court（コート）の項目で説明したとおり、対戦プレーヤーが試合のために占有している、ネットを境にしたコートのどちらかの部分を指す。

☞ change-of-ends, court

English grip イングリッシュ・グリップ。最も古くから英国を中心に欧州各地で用いられた握り方なので、コンチネンタル（大陸の、つまり欧州大陸の差と）グリップともいわれる。基本的にはイースタンと同じで、親指と人指し指の付け根のV字形がラケットの柄の真上部分にくる。ただし、イースタン・グリップでは、親指、人差し指とも指先は柄にきつく巻きつけず、柄に軽く添える程度。一方、イングリッシュ・グリップでは十分に指先を柄の握りの側方(右利きの人なら左側)につけ、両指先で巻き込むようにする。

参 テニスのラケットでは、グリップ（柄の握り部分）がバドミントンよりずっと太い。そのためイースタン・グリップで握っても、親指と人差し指の付け根で形成されるV字形の谷が、バドミントンの場合のように柄の真上の部分には来ない。テニスの場合、V字の位置は真上の右端になる。そこから手首を45度内側に回し、バドミントンの場合の、イースタン・グリップの位置にV字形の谷が来た時、その握り方をイングリッシュ（コンチネンタル）グリップといっている。

☞ grip, Western grip

entry エントリー。enter（～に入るという動詞）から出た言葉で、スポーツでは競技会への参加者、または参加申込者のこと。

例 There are thirty-two entries for the men's singles.（男子シングルスの参加申込みは32人だった。）

entry 自体は一人の参加者を意味するから、二人以上なら複数形になる。なお、競技会に参加する（動詞）という場合のいい方には enter, participate in, take part in などが使われる。

〈Eの項つづく〉

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

Dの項つづき

drive ドライブ。バドミントンでは「ネットすれすれぐらいの高さを、水平に近い軌道で鋭く飛ぶ打球」のこと。もともとは〝駆り立てる、追い立てる〟意味で、これが車などを運転する意味に発展した。野球の、日本語でいうところのライナーは（英語にもあるが）ライン・ドライブ（line drive）というのがふつう。ここでいうドライブの意味はバドミントンと共通のものである。テニスにもドライブという打球はあるが、この方はボールに順回転を与える（インパクトの瞬間、打面を下から上にこすり上げるように振り上げる）球なので、バドミントンの打球とはややおもむきが違う。

drive clear ドライブ・クリア。クリアの一種でドライブ性のもの。すなわち、ふつうのクリアほど高く打ち上げない（相手がラケットを頭上いっぱいに振り上げても届かぬ高さならよい）かわりに、スピードと力を加えて相手に苦しい返球をよぎなくさせるのが目的。本来は守りのストロークであるクリアを、反撃の手段として使うために考えられた。

日本ではこれをドリブン・クリアといいならわしてきた。ドリブンは driven で、drive の過去分詞形容詞。ドライブをかけた、という意味である。しかし、今日ではドリブン・クリア、ドリブン・サービス（次項参照）という形はほとんど見られず、ドライブ・クリア、ドライブ・サービスという表現が圧倒的である。これまでに本欄で引用した参考書類にも、ドリブンの形は収録されていない。こういう〝時代の変化〟は知っておいて悪くない。なお、英国ナショナル・コーチ、P. デービスの "Badminton is Fun" には、ドライブ・クリアのことは "attacking clear"（アタッキング・クリア＝攻撃的クリアと表現されている。

drive serve ドライブ・サーブ。前項の説明でも触れたように、これも日本ではドリブン・サービスと表現する人が多い。ショート・サービス（short service）またはロウ・サービス（low service）と呼ばれるサービスの一種。ふつうのショート・サービスは、レシーバーの前面、すなわち、ショート・サービス・ラインぎりぎりをねらうか、ドライブ・サーブでは深くロング・サービス・ライン、しかも主に相手バックハンド側コーナーをねらう。

これは相手の予測の裏をかいて、一番受けにくいところへシャトルを送り込むのが目的なので、プレースメント（ねらいどころ）の正確さが要求され、また、手首をきかせてシャトルにスピードとパワーを与えることが大切である。

念のため The Illustrated Handbook of Sports Terms の説明を載せておこう。

drive serve A hard-hit service that passes just above the net and is intended to land near the long service line.（ネットの上すれすれを通り、ロング・サービス・ライン近辺に着地するようにねらって、ハードヒットされたサービス。）

drop shot ドロップ・ショット。単にドロップともいう。主としてオーバーヘッドから、インパクトで力を抜き、ラケットを止めるような感じで軽打する。ネットをぎりぎりの高さで越して、ただちに落下を始めるものをスロー・ドロップ（slow drop）、インパクトの瞬間手首はほとんど使わないが、一見、スマッシュに見える打法で、中後陣に深く沈めるファースト・ドロップ（fast drop）の二種類がある。

ドロップ・ショットの打法で、ラケット打面をシャトルの左右いずれかの側面から当てて、切りおろすようにするとカット（その項参照）になる。

〈Dの項・完〉

新しい試み

競い合い、刺激し合う

初めての全国高校選抜合宿

春の高校選抜が終って間もなく、ほっと息をつく暇もなく、第1回の全国高等学校選抜バドミン研修会が、河崎ラケット工業株式会社主催により3月26日から29日まで、東京品川プリンスホテル内高輪スポーツクラブ室内コートで行なわれました。

コート6面を使って、総当たりのリーグ戦を主体にした練習と、夜は密度の高いミーティング、宿泊はホテルのシングルルーム、食事はナイフとフォークの洋食が中心、各選手は予惑いながらもそこは〝若さ〟、多くのことを学びとったようでした。

ミーティングの第一夜は小島一平氏(ラケットショップ元町)のガッツな体験講座、第二夜は阿部一佳氏(筑波大)の物理論とリム・スイ・キンのビデオ映写、三日目は宮永武司氏(明治生命)の世界のバドミントンの現状と、若い高校生の向上意欲をそそる盛り沢山の内容が組まれました。

全国の選手が試合場ではなく、〝練習場〟で一堂に会するのはもちろんこれが初めて、刺激になったのは選手ばかりか、引率の先生方にとっても〝勉強会〟となって、まずはこの企画、大成功のうちに幕を閉じたといえるでしょう。

〈参加校〉

▽男子

福井県立足羽高
北海道・帯広柏葉高
奈良・正強高
青森・東奥義塾高
神奈川県立横浜立野高

▽女子

熊本中央女子高
青森・千葉学園高
新潟県立新潟中央高
山形城北女子高
神奈川県立横浜立野高

(以上順不同)

大変いいチャンス

横浜立野・杉田博監督の話…選抜では組み合わせが良くて決勝までゆけたんですが、それが自信となって表れてくれるといいんですが、ここへ来ても勝たなくてはという固さになって、ちっとも自信になっていない。もう少し伸び伸びできるといいんですが。しかし、いろいろな選手と練習できていいチャンスですね。大勢の先生方にもお会いできるし、独特な練習方法などもうかがえます。熊本中央女の、財政的にシャトルがふんだんに使えないため、選手が打ちたくなるまで打たせないようにするなど、参考になります。

東奥義塾・市川和司監督の話……単独で練習しているより、一カ所にこれだけ集まってできることはいいことだ。やは同校内だけでは強くならない。各県のレベルも判るし、手の内も読めて比較できる。今年の東北はレベルが低いので大変ためになります。ぜひベスト8を目標に頑張りたいと思います。

新潟中央・鈴木明美監督の話……新潟にいると、どうしても青陵がいるので、選手たちに壁になってしまいますが、全国のプレーヤーと接することによって、もっと何か可能性のようなものを与えてくれたような気がします。青陵は佐藤秀夫先生の指導がよくゆき届いて、最後の土壇場で力を発揮しますので、なおのことこのような場で、十分な可能性を見つけてもらいたい。小島さんの話は実戦的で分り易く、大変参考になりました。阿部先生の物理論も、難かしいけど難しいなりに、生徒に疑問を投げかけ、必死で考えようとしています。〝若さ〟を刺激してくれたという意味において、有難いことです。

千葉学園・佐藤正明監督の話……ウチは選抜前に故障者が3人出て、それが多少不安なんですが……。試合は大阪戦は上手くいったんですが、次はもう試合をするのがやっとの状態でした。夏のインハイは、熊本、新潟が強敵になりそうですね。各校とも悩みがありそうですが、ウチはバドミントンの環境にはとても恵まれていますが、悩みといえば県内にライバルがいないことぐらい。ミーティングは小島さんの体験談は理解し易かったですが、阿部さんの講義はちょっと生徒には難かしかったようです。

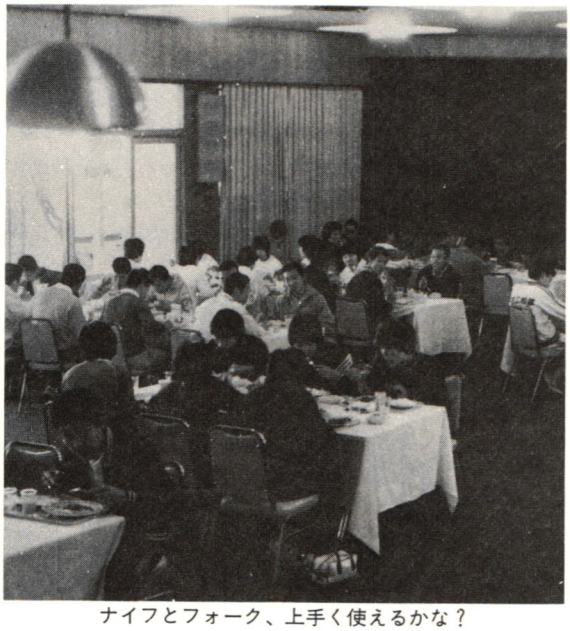
奈良正強・谷口章監督の話…練習試合でも比叡山、高松などとやっていますが、今年はダブルス2つを使ってどこまでいけるかといったところです。ワタシのところは、いろいろとOBが面倒をみてくれるので助かるのですが、こういう機会では指導者同士の交流ができるので嬉しいですね。最近のバドミン

トンはどんどん新しくなっていますし、もっともっと指導者たるワタシたちが勉強しなければなりません。そして若い者の気持を汲み、また汲み過ぎて甘くなってもいけない、精神的な指導もありますし……。兎に角、勝つことによって意欲を持たせるように心がけています。最近は関東が頑張っているので、近畿とても負けておれません。

熊本中央女・工藤勇参監督の話……おかげさまで春の選抜では、インハイの手応えを感じとることができました。私は、何が何でもスピードとパワー、これさえ鍛えておけばと思ってやってきました。ウチのクラブは財政的に豊かでないので、シャトルはあまり打たしてませんが、その分をノックでシゴいてます。高峰が最上級生としての自覚を持ってくれているので、プレーにもいい影響が出ていますから、今年は期待しています。

帯広柏葉・上山功夫監督の話……北海道では練習相手がいなくて苦労しています。帯広から札幌まで汽車で四時間、青森までだと十二～三時間かかりますから。だからこのような機会は非常に有難いですね。試合の中ではなかなか見られないようなテクニックを見ることができます。北海道の選手は〝継ぎ〟のストロークが下手なんですが、ダブルスでも少しずつ下に沈めるような努力をするようになりました。スマートさが流行する最近の子供たちに、小島さんの話しは、〝我武者羅〟さというものを教えてくれました。

横浜立野（女子）・杉田良子監督の話……大変いいチャンスに恵まれまして…、かえって動きが鈍くなっているみたいな気がします。なかなかないことだから、より多くのことを吸収したいですね。小島さんの精神的な、阿部さんの物理的なお話もとても参考になりました。


ナイフとフォーク、上手く使えるかな？

山形城北女・清水秀裕監督の話……山形には一流プレーヤーがあまりいないので、こんなに揃っている機会は大変貴重です。県内の新人戦では2位だったので、これを足がかりに巻き返したい。選手は、初めは緊張していたようですが、次第にリラックスしてきました。同じことをいわれるにしても、小島さんにいわれると説得力があるし、感激していました。できればこのような企画は続けて欲しいですね。

福井足羽・小原洋美監督の話……すごく役に立っています。とくに初日の小島さんの話など、普段毎日見ていると、見慣れているために気がつかないことなど指摘され、新鮮味があります。ウチは、冬はほとんどサーブしか打たせないでウエイトトレーニング、4月からノックを始めて、ゲーム練習に入るのは5月頃から、今年はよほど頑張らなければ……。

ためになった講義

奈良正強・古賀勝志選手の話……学校の練習より楽でいい。人の良い点が見れるので、どんどん吸収したい。

同・梅林信幸選手の話……食事がおいしい。大勢いるのでいい練習になる。

横浜立野・小松美紀選手の話……強い人ばかりなので圧倒されます。勝とうと思わないで、一生懸命やるだけ。

東奥義塾・市川功司選手の話……このチャンスを大事にしてレベルを向上させたい。阿部先生の話には、とても考えさせられました。

熊本中央女・高峰和子選手の話……同年代の人達が集まって楽しい。食事もおいしいし…。

小島さんの話は、自分ではやっているつもりだったけれど、反省する点が多い。最上級生になったので自分が引張っていかなければと思います。

千葉学園・藤永由香選手の話……何時もと違った人に指導されると勉強になります。寮と比べるとやはり食べ物がおいしい。阿部先生の話には、考えさせられたり、なるほどと思ったりしました。

足羽高・井上哲也選手の話…選抜のシングルス3位は予想外でした。腰を痛めていたし、団体戦にも出られたかったから。やっぱり上位の人はタッチが違いました。夏には、甘いコースではダメなので、厳しいコースを攻めて大きく動かせるようにしたい。

■出版案内

バドミントン界編集部

お申込みは巻末とじ込みの振替用紙で、お近くの郵便局からどうぞ

スターティング・バドミントン

バドミントン史上最強の天才女子プレーヤーが、その体験をもとに、初心者・中級者向けにわかりやすく、具体的に解説した入門書の決定版――!!

★著者紹介★

ジュディ・ハッシュマン（Judy Hashman）は、アメリカを代表して20年間も第一線で活躍したJ・F・デブリンの娘として生まれる。全英選手権において、シングルス優勝10回、ダブルス優勝7回をとげている。また、アメリカ代表選手として14年間活躍、全米オープンでは単複にそれぞれ12回も優勝している。



これから始める人へ

ジュディ・ハッシュマン

後藤忠弘訳

すぐに役立つ決定版!!

好評発売中!!

指導者のハンドブック

B5変形判（182ミリ×205ミリ）

定価1200円（送料160円）

〈本書の内容〉

1　ラケットを持つ前に

バドミントンは楽しい／投げる力が基本／さあ、コートに出よう ほか

2　ストローク入門

ラケットの握り方／バックハンドのグリップ／スナップを十分にきかせる／ラケットの振り方／バックスイング／フォワード・スイング／フットワーク／ストロークを身につけるための練習／ネットプレーのための練習 ほか

3　クリアーとドロップ

クリアー／オーバーヘッドの場合／アンダーアームの場合／ドロップ・ショット ほか

4　サービスの基本と上達法

ハイ・サービス／ハイ・サービスのテクニック／ショート・サービス／打点は高く、フライトは低く／その他のサービス ほか

5　バックハンドを身につける

アンダー・バックハンド・ストローク／ハイ・バックハンド・ストローク／ハイ・バックハンドのコツ／バックハンドを練習する時のポイント ほか

6　ウェアと用具

用具の四原則／シューズ／上着／ラケット ほか

7　ネバー・ギブアップ

準備にベストを尽くす／自分が苦しい時は相手も苦しい／「もし……すれば」は禁物／目に見えない敵に勝つ／いくつもの練習を組み合わせる ほか

8　集中力と精神力

〝勝つ〟信念が勝利をよぶ／チャンスのくるまで粘りつづける／目標をしっかり持つ／〝読み〟のできるプレーヤーに／未知に挑戦する喜び ほか

9　コンディションの調整

うまくなるための要素／ランジングの練習／実力あるのみ／スタミナのもとは食事 ほか

10　パターン練習

練習は試合以上のものを／精神のスタミナを／ハッシュマン式パターン練習／半面練習 ほか

11　基本的な戦術

シングルスの戦術／サービスに安定性を／高度なことはやらなくてよい／タテにゆさぶる／ダブルスの戦術／一にも二にも攻撃／苦しくても〝考えた配球〟を ほか

★日本の実情に合わせて椙野尾昌一・悦子夫妻がワン・ポイント・アドバイス!!

★連続写真；ルディ・ハルトノ、リム・スイ・キン、パデュコーン・プラカシュ、スヴェン・プリら7フォームを収録して、さらにわかりやすくなっています!!

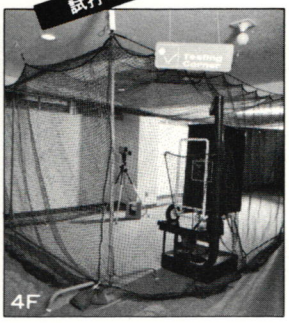
ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

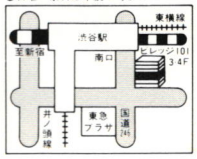
170坪

650㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





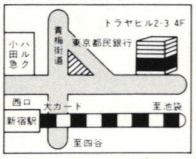
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ビレッジ101ビル3-4階）TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの
楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤヒル2.3.4階）TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





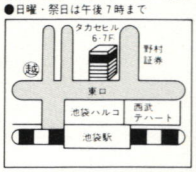




池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1－1－4（タカセヒル6・7階）TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

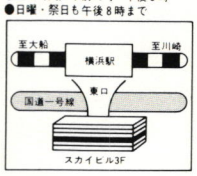
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。







年中無休
横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口
（スカイヒル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



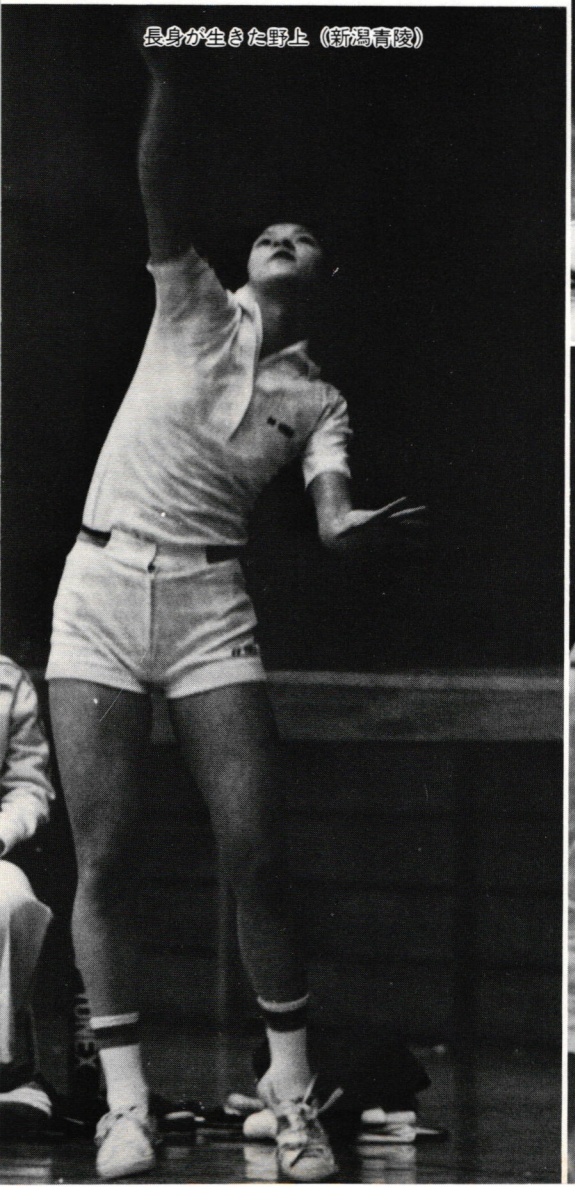
日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

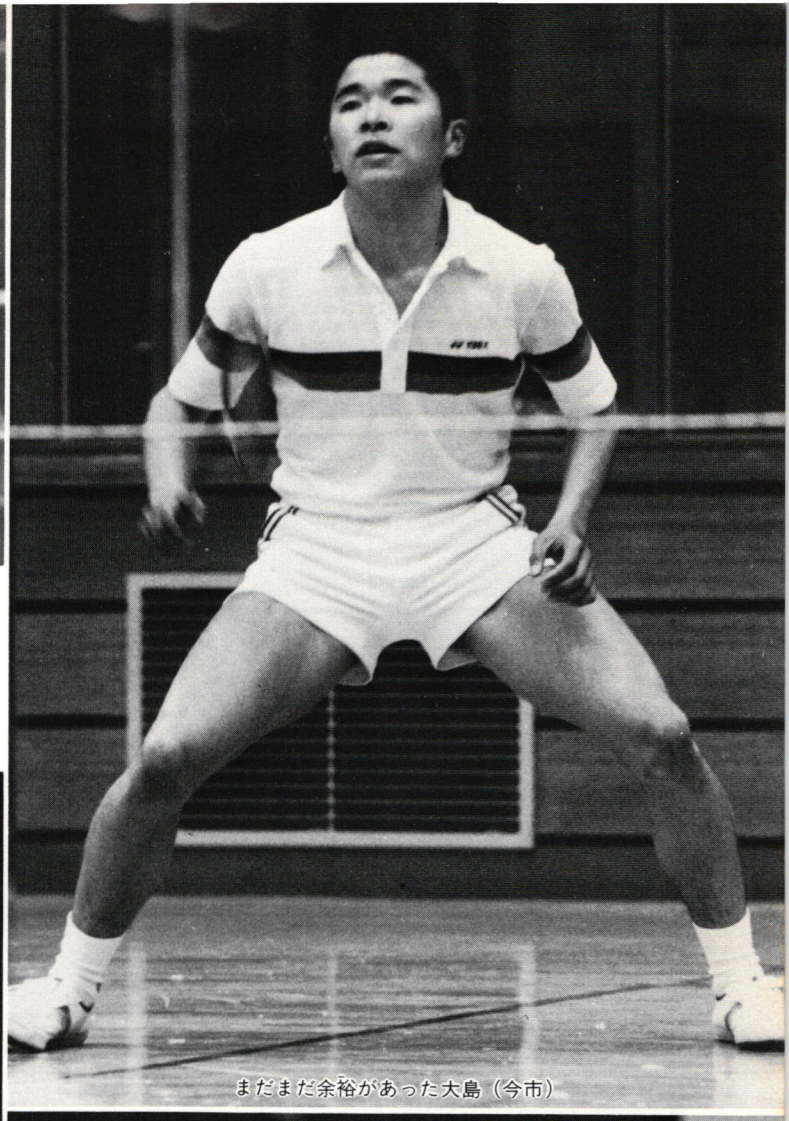


「しまった」「ドンマイ、ドンマイ」荒川・平間組（小山城南）

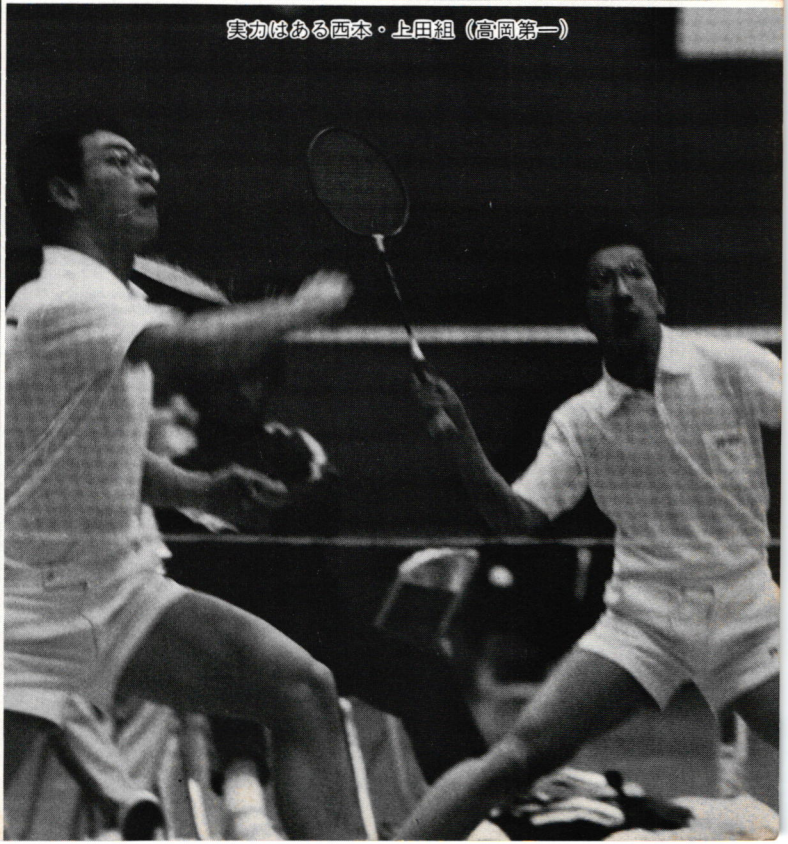
ンバッ〝



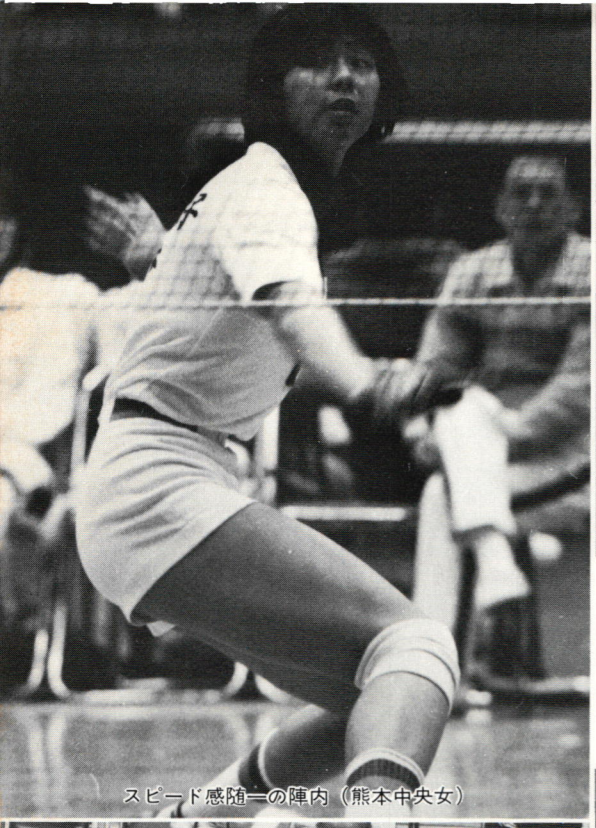
長身が生きた野上（新潟青陵）



まだまだ余裕があった大島（今市）



実力はある西本・上田組（高岡第一）

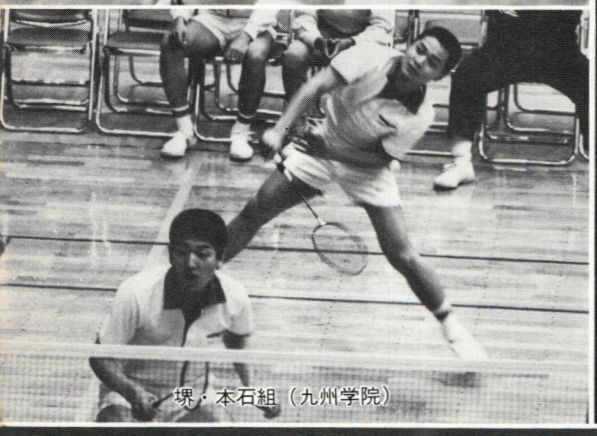


スピード感随一の陣内（熊本中央女）

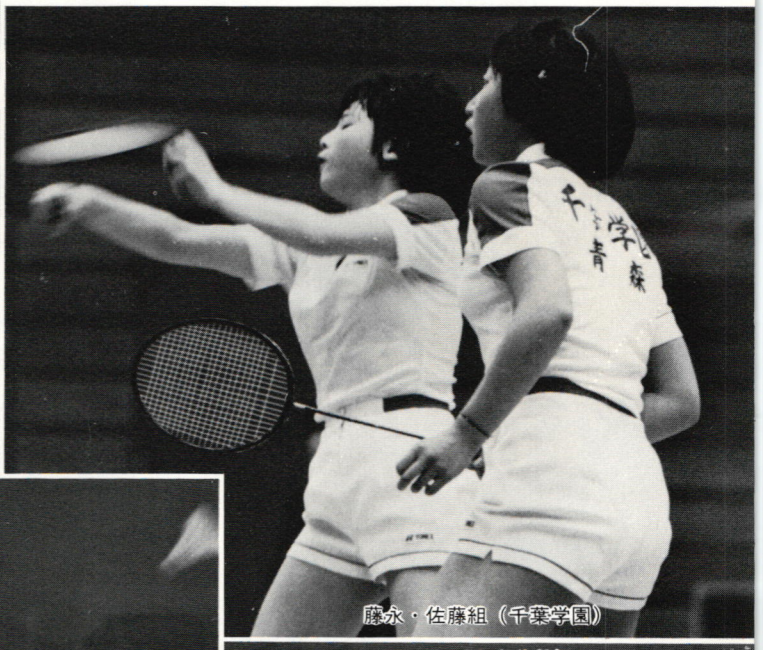


巻き返すか松田・新木（四条畷）

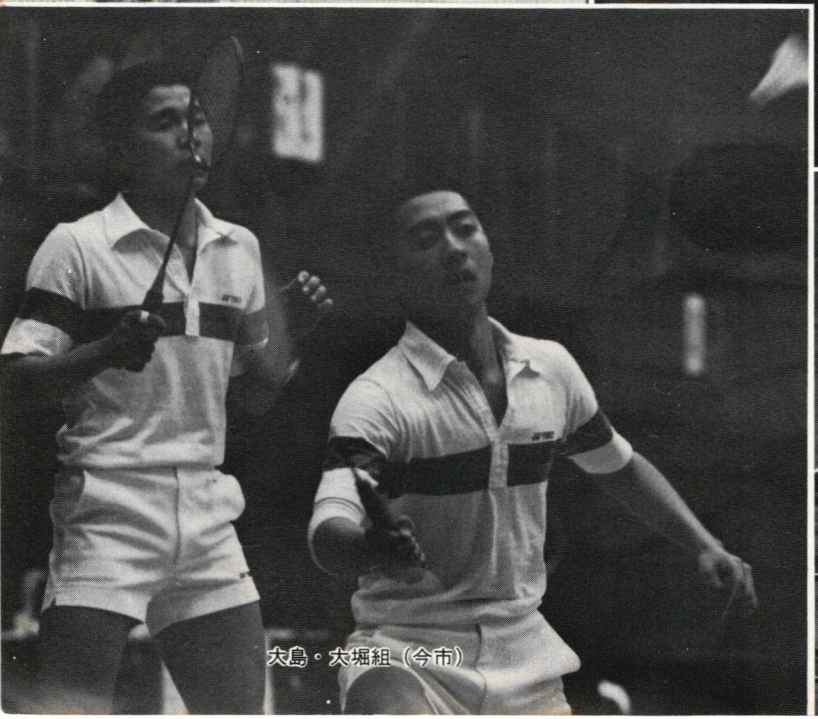
若さの"セ



堺・本石組（九州学院）

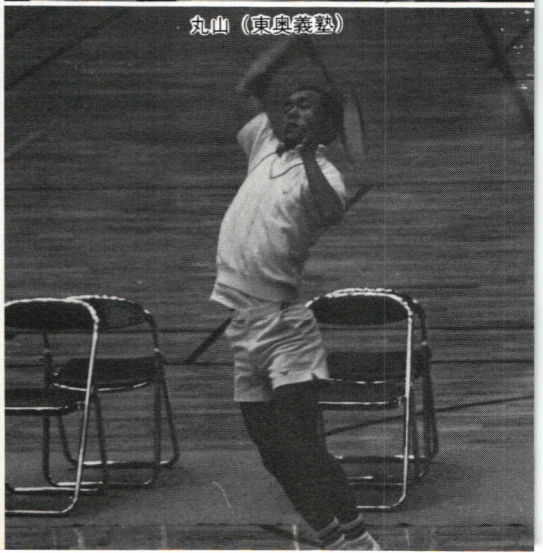


藤永・佐藤組（千葉学園）



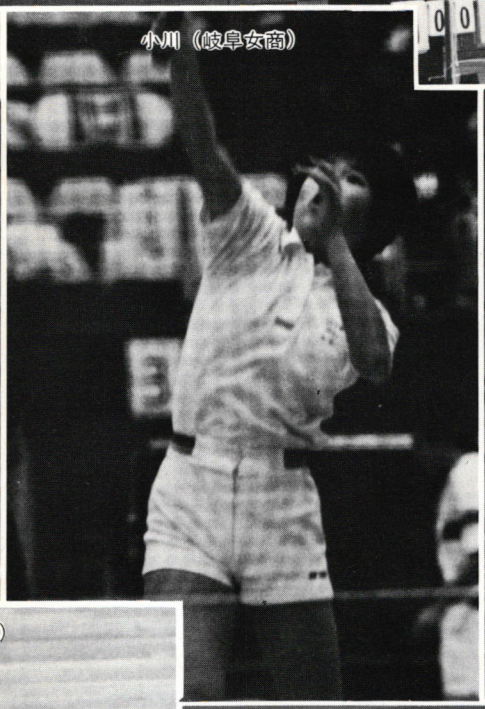
大島・大堀組（今市）

丸山（東奥義塾）

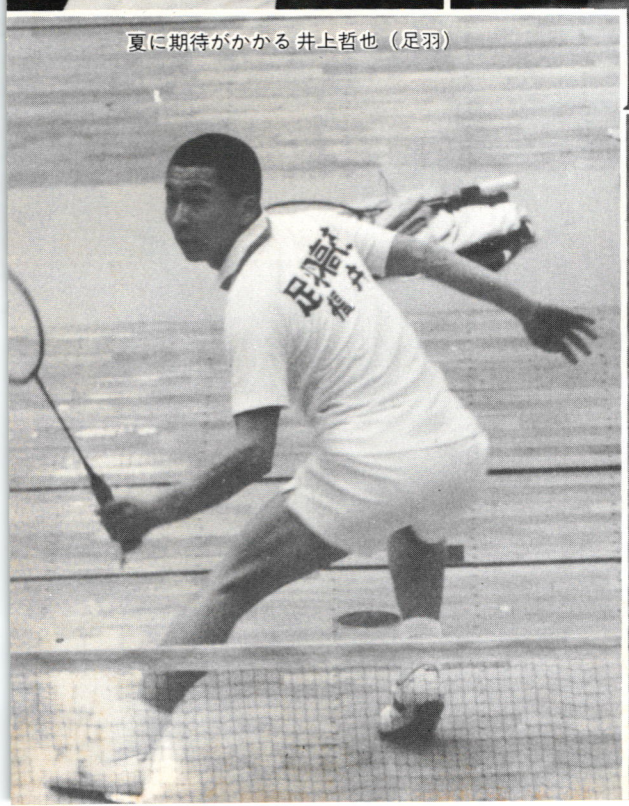


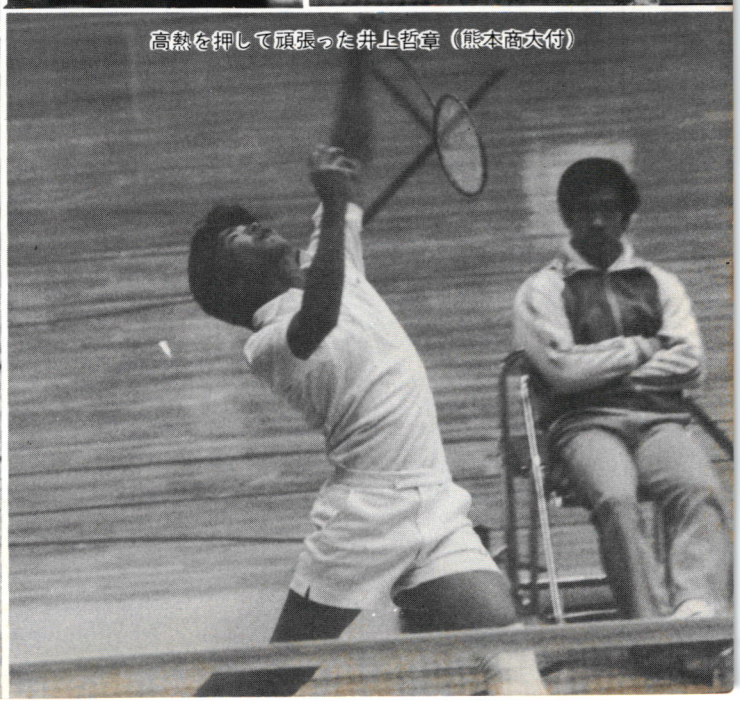



将来性十分の山本（高松中央）


小川（岐阜女商）


梅津（伊勢工）


夏に期待がかかる井上哲也（足羽）


高熱を押して頑張った井上哲章（熊本商大付）

今、世界のコートで活躍する一流プレーヤーの4人のうち3人までがヨネックスのラケットで勝利をその手にしています。それはヨネックスの技術の真価の証明でもあるわけです。常に最先端のラケットを作りつづけた歴史の信頼でもあります。たとえばB-8500、カーボネックスは一つの壁とされていた100gを大きく破り、その超軽量と性能のシャープさで世界を興奮させました。バドミントンの未来の先取りです。いま、熱い視線がヨネックスに注そがれています。

YONEX®

世界のコートで活躍するのは、いつもヨネックス。



'80全英バドミントンチャンピオン
プラカシュ・パデュコーン(インド)



DÉFI

イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki

河崎ラケット工業株式会社